

双葉郡の教育に関するアンケート調査  
結果報告書

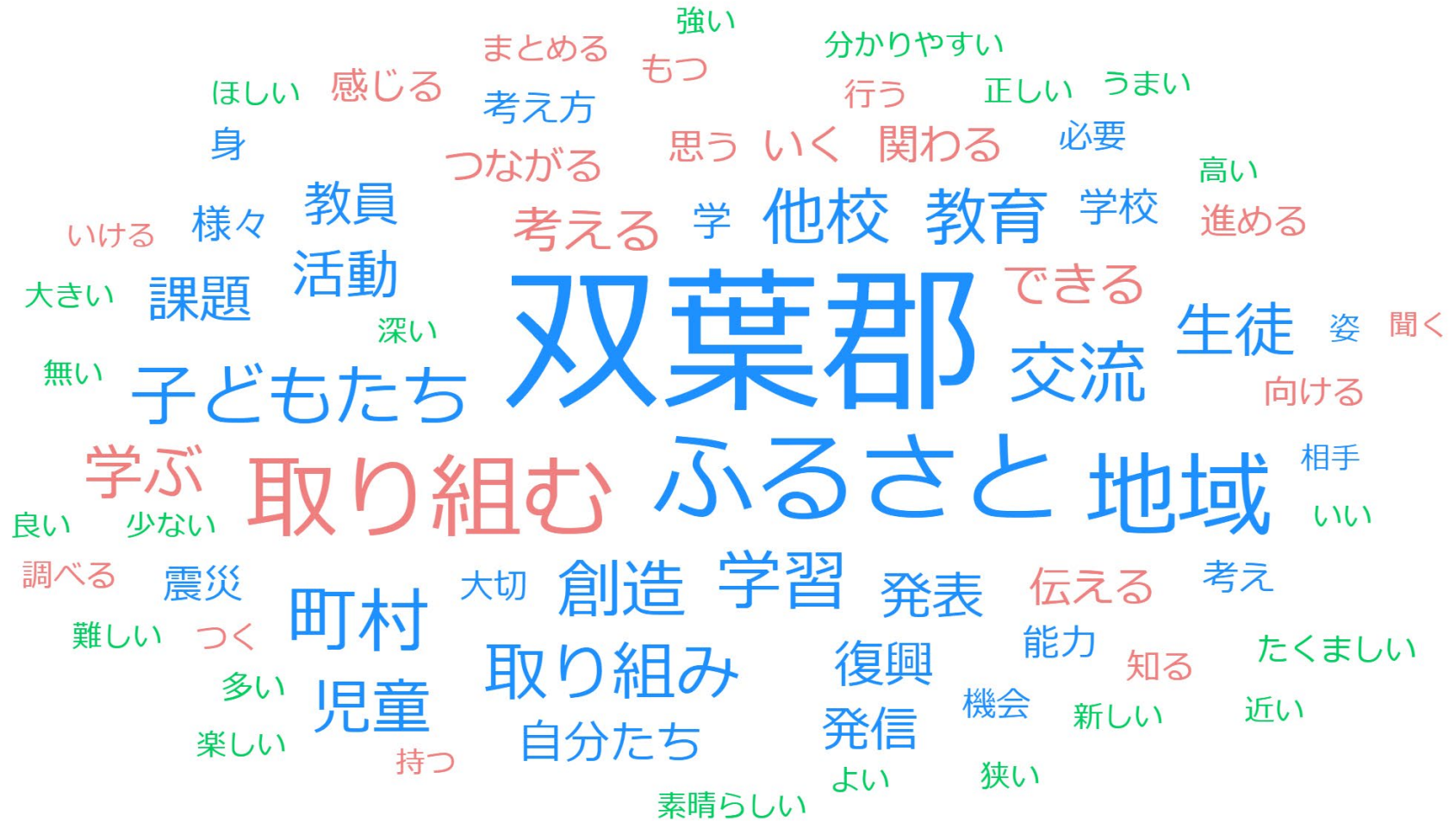
双葉地区教育長会

令和4年2月



ワードクラウド【B】(①Web アンケート (イ) 教職員、教育関係者回答より)

※出現頻度が高い単語をその頻度に応じた大きさで示したものの。水色=名詞、ピンク=動詞、緑=形容詞

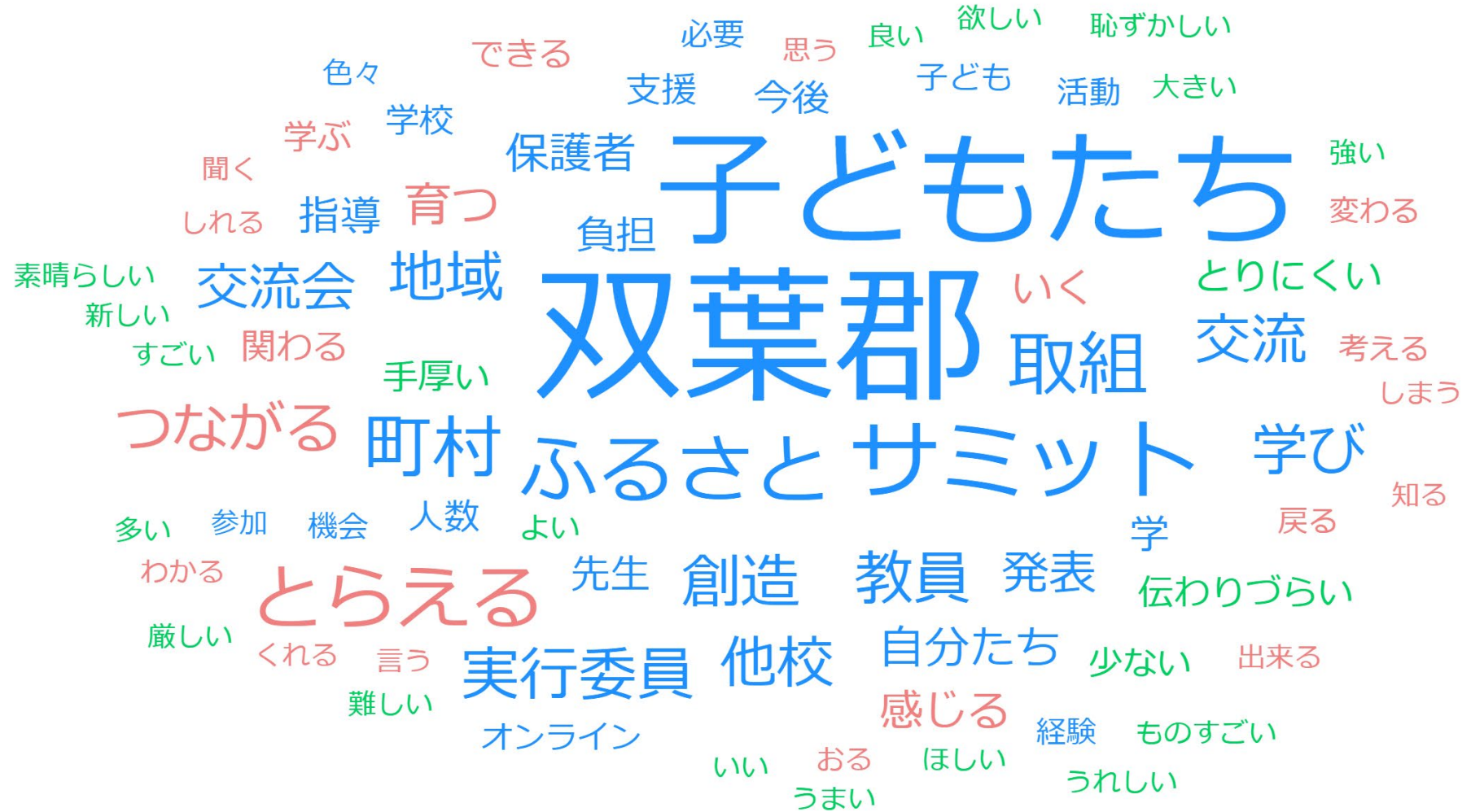






ワードクラウド【E】(②ヒアリング(イ) 双葉郡教育復興ビジョンの各取組元実行委員長、実行委員複数年経験者回答より)

※出現頻度が高い単語をその頻度に応じた大きさで示したもの。水色=名詞、ピンク=動詞、緑=形容詞



# 目 次

<b>1.</b>	<b>調査概要</b> .....	<b>7</b>
1.1	調査目的.....	7
1.2	調査対象.....	7
1.3	調査方法.....	7
1.4	調査期間.....	7
1.5	回答者数.....	7
1.6	Web アンケート回答率.....	7
1.7	Web アンケート回答者情報.....	8
<b>2.</b>	<b>Web アンケート調査結果</b> .....	<b>9</b>
2.1	学習・生活・教育環境・双葉郡教育復興ビジョン事業等について.....	9
	（ア）小学校、中学校、高校の児童生徒、卒業生.....	10
	（イ）教職員、教育関係者.....	11
	（ウ）保護者、地域住民.....	12
2.2	学習・全般に関して.....	13
	（ア）小学校、中学校、高校の児童生徒、卒業生.....	13
	（イ）教職員、教育関係者.....	20
	（ウ）保護者、地域住民.....	26
2.3	双葉郡教育復興ビジョンの取り組みについて.....	32
	（イ）教職員、教育関係者.....	33
<b>3.</b>	<b>ヒアリング調査結果</b> .....	<b>39</b>
A)	町村立学校の校長先生.....	39
B)	双葉郡教育復興ビジョンの各取組元実行委員長、実行委員複数年経験者.....	43

## 1. 調査概要

### 1.1 調査目的

よりよい双葉郡の教育をめざして、学校教育等に対する意見や感想を調査し、それを今後の計画づくりや運営の参考とする

### 1.2 調査対象

① Web アンケート

(ア) 小学校、中学校、高校の児童生徒、卒業生

(イ) 教職員、教育関係者

(ウ) 保護者、地域住民

② ヒアリング

(ア) 町村立学校の校長先生

(イ) 双葉郡教育復興ビジョンの各取組元実行委員長、実行委員複数年経験者

### 1.3 調査方法

Web アンケート・ヒアリング

### 1.4 調査期間

令和3年6月15日(火)～7月6日(火)

### 1.5 回答者数

① Web アンケート

163人(内訳：児童・生徒・卒業生77人、保護者25人、教育関係者61人)

② ヒアリング

25人(町村立学校長12人、元実行委員長3人、実行委員複数年経験者10人)

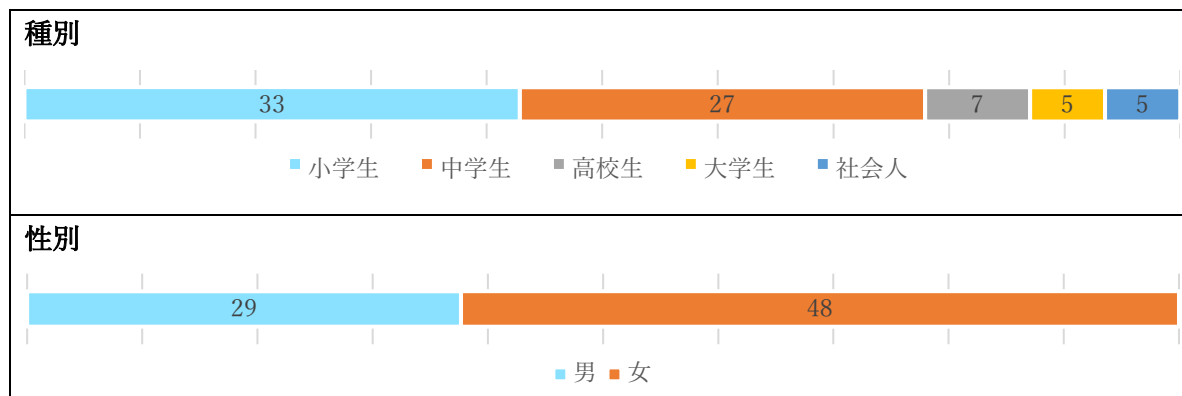
### 1.6 Web アンケート回答率

	対象者数	回答数	回答率
(ア)小学校、中学校、高校の児童生徒、卒業生	101	77	76.2%
(イ)教職員、教育関係者	69	61	88.4%
(ウ)保護者、地域住民	36	25	69.4%
計	206	163	79.1%

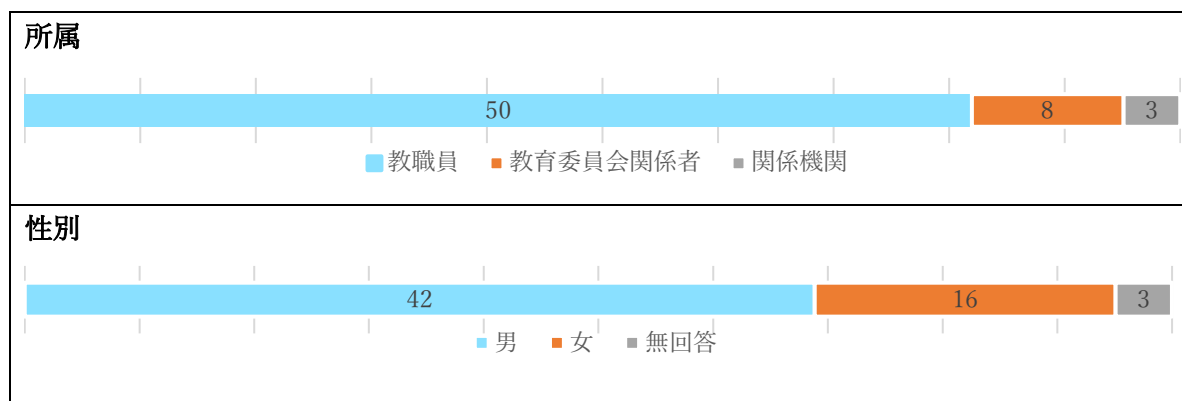


## 1.7 Web アンケート回答者情報

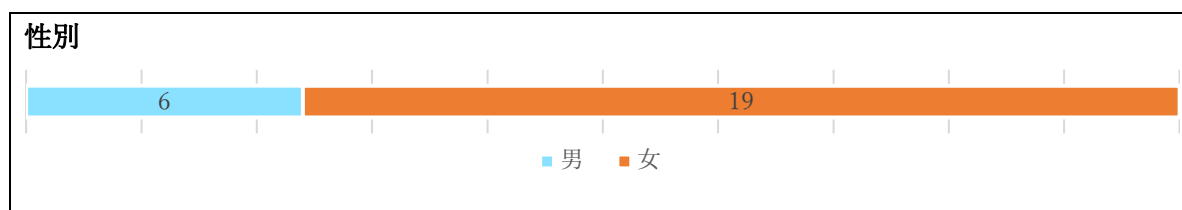
### 1.7.1 小学校、中学校、高校の児童生徒、卒業生



### 1.7.2 教職員、教育関係者



### 1.7.3 保護者、地域住民



## 2. Web アンケート調査結果

### 2.1 学習・生活・教育環境・双葉郡教育復興ビジョン事業等について

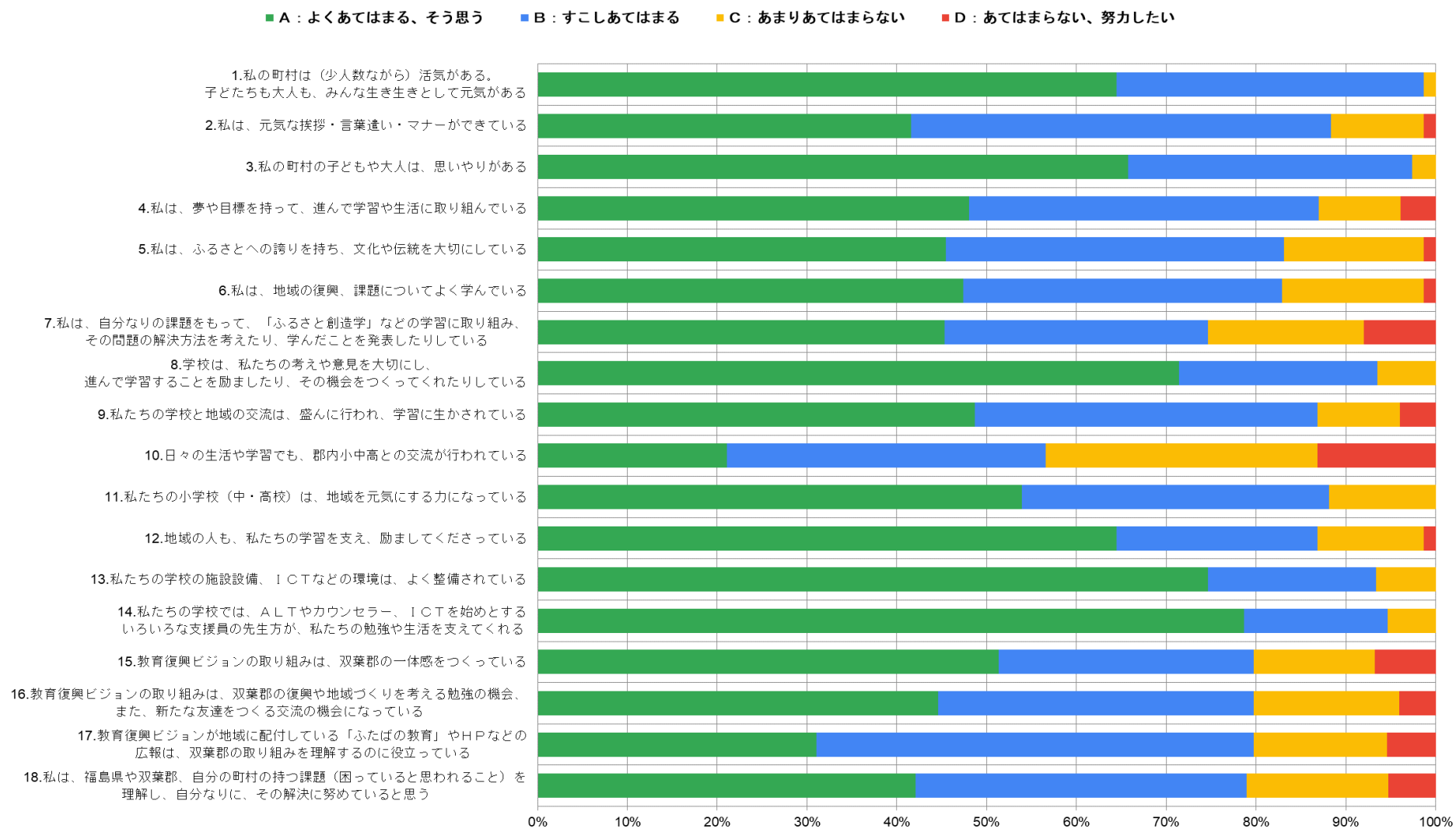
子どもたち、保護者、教育関係者の三者ともに、ほとんどの項目で「よくあてはまる」「少しあてはまる」の評価が、8割を越えている。

最も評価の高かったのは、子どもたちで「1 町村の活気」「3 思いやり」「13・14 人的物的教育環境」。保護者で「1 町村の活気」「5 ふるさとへの誇り」「8 主体性の尊重」「9 学校と地域の交流」。教育関係者では「8 主体性の尊重」「1 2 地域の力」「1 8 課題解決」などであった。

評価の低い項目は、三者ともに、「10 郡内小中高の交流」である。子どもたちは「7 ふるさと創造学」、保護者は「1 8 課題解決」、教育関係者では「2 あいさつマナー」が2番目に低くなっている。全体的に、教育関係者（保護者も）の評価が厳しい。

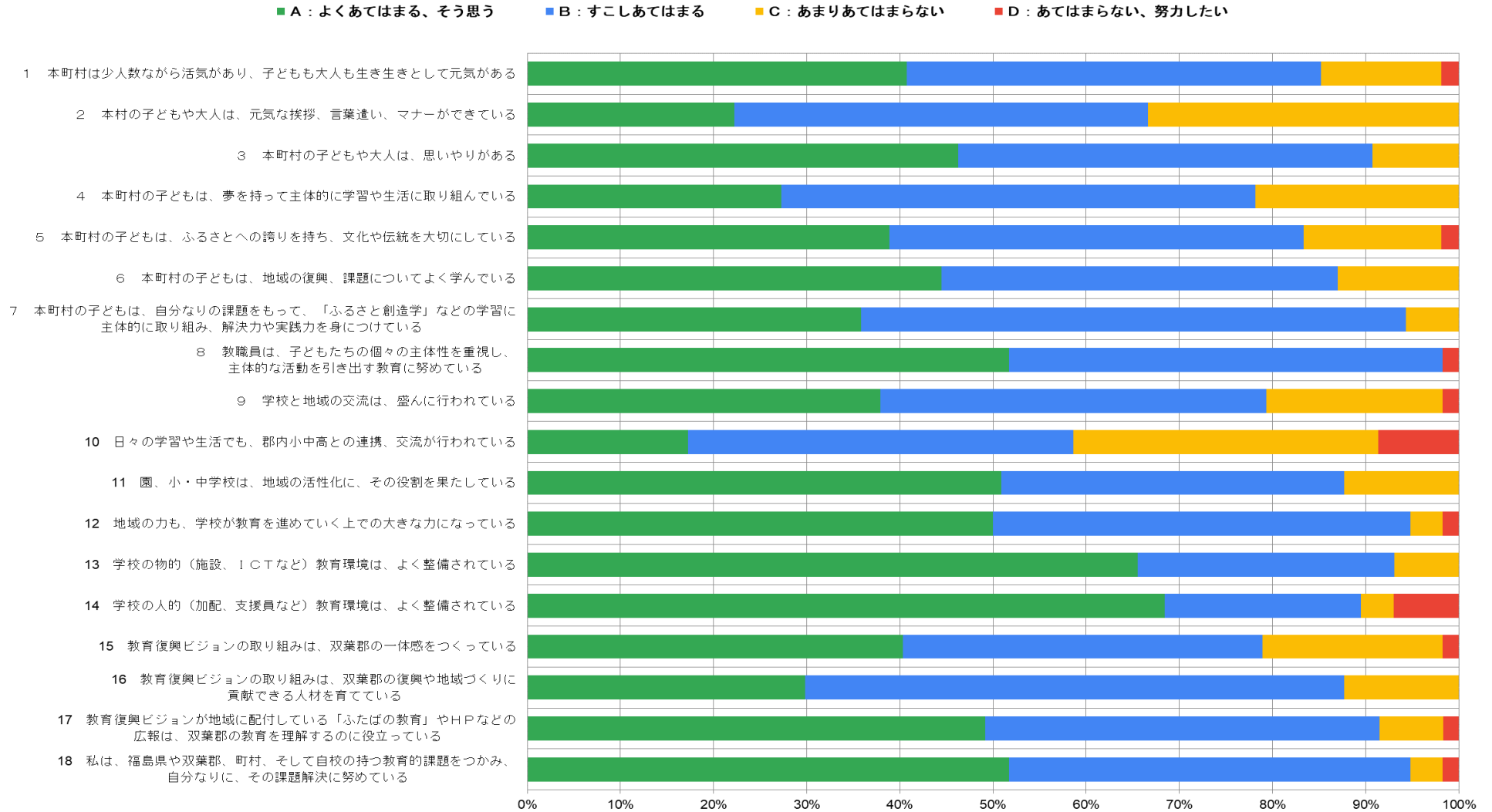
(ア)小学校、中学校、高校の児童生徒、卒業生

※回答があったうちの割合



(イ)教職員、教育関係者

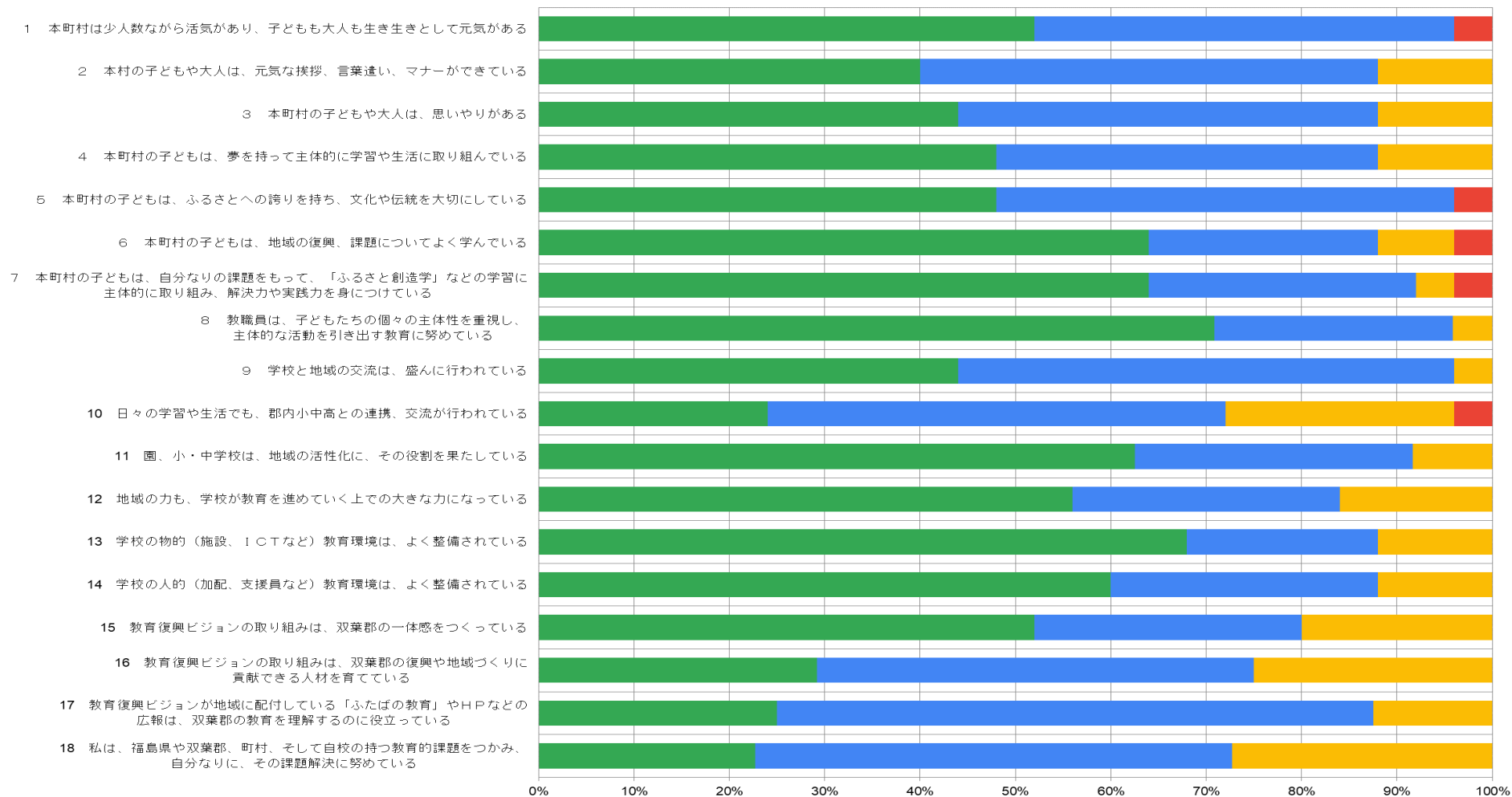
※回答があったうちの割合



(ウ) 保護者、地域住民

※回答があったうちの割合

■ A : よくあてはまる、そう思う    ■ B : すこしあてはまる    ■ C : あまりあてはまらない    ■ D : あてはまらない、努力したい



## 2.2 学習・全般に関して

子どもたちの多くは、地域の方々や他校の友達との交流を通して、地域の魅力や抱える課題を学ぶことができたこと、さらに、自分なりに問いや課題を持つことができるようになったこと、今後もそれらが大切であると回答している。また、交流や発表の機会がその力を育てているとも回答している。交流の機会増を願う声が複数見られた。

保護者の多くも、地域社会への関心や人と関わる力、行動力が育まれていると感じている。小規模の学校が多いこともあってか、他校の友達との交流や学習を願っている。各学校の教育活動やビジョンの取り組みについても、期待が伝わってくる内容が多い。

教職員、教育関係者についても、ビジョンの各種事業等を通して、子どもたちを始め、自分たちも多くのことを学んでいると回答している。その中心は「ふるさと創造学」であり、指導やナビゲートの難しさに悩みながらも意欲的に取り組む姿がうかがえる。地域の方々や他校の友達との交流を大切にしたいこと、自主性を育てたいこと、関わりすぎを反省する回答が目だった。また、「ビジョン」や震災記憶の継承、総合的な学習の時間の指導などを課題と回答している。

### (ア) 小学校、中学校、高校の児童生徒、卒業生

#### ※主な意見

【学習に関して】	
1. 「ふるさと創造学」などの、双葉郡内の小中高生が、みんなで取り組んでいる学習についてお聞きします。次にあげる学習を通して、①あなたが身につけてきたことは、どのようなことですか（どのような力が身についたと思いますか、考え方がどのように変わりましたか）。できれば、②その理由（どうしてそう思うのか）もお願いします。	
(1)各学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」	
① あなたが身につけてきたことは、どのようなことですか（どのような力が身についたと思いますか、考え方がどのように変わりましたか）。	②その理由（どうしてそう思うのか）
<小学生>	
大熊町の良い所を改めて感じたり、これからの大熊町をどうして行きたいのかもかんがえられた。	自分が疑問に思うことを調べて新しい発見を見つけて、これをまとめたから。
<中学生>	
ふるさとについて知ることができた。知らなかったことを知ることができ、いろいろなことに興味をもてるようになった。考える力が身についたと思う。学んだことを深めることができるようになった。	まとめる時に詳しく書けたり、分析したりできるようになったから。

<p>地域の現状や、住む人の思いなどを分かりやすく伝える力が身に付いた。また、2年前に広野町に移住してから、双葉郡という存在が環境面などいかに重要かを知ることができ、マイナスの印象からプラスの印象へ変わった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来創造学を通して、PowerPointでの発表やフィールドワークで地域の人や周りの人への「発信」活動を重点的に行なっていたから。</li> <li>・「復興途上」なのは事実だが、原発被害のイメージから、様々な人が協力し合い新たな双葉郡を作ろうとしていると感じたから。</li> </ul>
<p>&lt;大学生&gt;</p>	
<p>問いを立てる能力</p>	<p>社会問題など一見自分には関係なく、考えなくても良さそうに見えることに関して自分の意見や疑問や仮説を考えて検証することの繰り返しが問いを立てる能力に繋がった。それがただ調べるだけの学習との違いだと思う。</p>
<p>&lt;社会人&gt;</p>	
<p>私が在学していた頃は、ふるさと創造学ができる前でした。しかし、子ども自らが動き先生と対話していくような授業をしたいと思いながら生活していました。 その中で先生へ考えを伝えて一緒になって考えていく過程で、表現力や視点の転換などを学びました。</p>	<p>話を聞いてくださった先生方が、生徒としてではなく対等に近い目線で厳しい意見も含めて話し合っていたからだと思います。同じ目線で話し、意見を交換することで先生方の思う決まった答えに当てはまらない議論の中に多くの学びがありました。</p>
<p>(2)郡内の小中高生が集まって行われる「ふるさと創造学サミット」</p>	
<p>① あなたが身につけてきたことは、どのようなことですか（どのような力が身についたと思いますか、考え方がどのように変わりましたか）。</p>	<p>②その理由（どうしてそう思うのか）</p>
<p>&lt;小学生&gt;</p>	
<p>いろんなところで、がんばっている学校があると思うと自分もがんばらなくちゃならないと思いました</p>	<p>みんなと力を合わせてがんばろうと思いました</p>
<p>&lt;中学生&gt;</p>	
<p>他の学校がどんなことに着目して学習しているかが分かった。他の学校の意見も聞くことができ、視野が広がった。</p>	<p>意見交流をした時に、自分とは違う考えの人を多く見かけたから。</p>
<p>&lt;高校生&gt;</p>	
<p>話す力 対応力</p>	<p>実際発表した時に思ったことを書こうと思います。 ふるさと創造学サミットはそれぞれ違う小中高生が集まります。自分が発表したあとの質疑応答でどれだけわかりやすく相手に伝えられるかが大切</p>

	<p>だと思えます。また、事前に準備していても準備した内容と違う内容もとんでくるので、とっさの対応力が必要かなと思います。</p> <p>質問が来ない時もありますが…:(っ'ワ'c):</p> <p>なので、発表の回数を重ねるごとに話す力と対応力が自然とつきました。</p>
<大学生>	
<p>故郷について学んだことを他の人に向けて発信することが楽しいと思えるようになった。</p>	<p>他の市町村の発表を見て新たな発見があったことはもちろんだが、自分たちで学習してきた物を大勢の人の前で発表することで他の人にも町の素晴らしさやそこで復興に携わっている方々の活躍を知ってもらえる事が嬉しかったから。</p>
<社会人>	
<p>学生として参加することはなく、大学生ボランティア等で一緒に参加する形でした。</p> <p>大人側として参加していましたが、子どもたちの考えが述べられていく中で、自分が大人に意見を拾ってもらったときのように私も子どもたちから面白いアイデアや考え方をもらいました。</p> <p>子どもたちは大人が思ってる以上に考え、感じているので柔軟な発想を邪魔しない表現を使いながら、具体的な方法や問題についても話し合いたいと思いました。</p>	<p>子どもたちが自分で学び、考えていく中でやはりある一定程度、先生方の発表を意識した面が出ていたと感じていました。</p> <p>しかし、子どもたちのしてきた議論や学習を率直に表現しているものもあり、面白いアイデアや子ども自身の考えを実現するために具体的などころまで対等に話し合えたならば、より素晴らしいものになっていくのではないかと思ったからです。</p> <p>決して大人が教えるのではなく議論し合うこと、不可能なことであっても柔軟な意見を潰さないように実現つもりで話し合うことが大事だと思ったからです。</p>
(3) 小学校の「絆づくり交流会」(中学生は「中学生交流会」)	
①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	②その理由(どうしてそう思うのか)
<小学生>	
<p>みんなとコミュニケーションをとって話を出来たりして楽しかったです。また、自分から話せる回数も増えてよかったです</p>	<p>一緒に運動して絆をふかめられたから</p>
<中学生>	
<p>今はだいたいメールですませますが、手紙で書くこともいいなと思いました。</p>	<p>林真理子さんの話を聞いたり手紙を書いて楽しかったからです。</p>
<p>積極的に交流する事。</p>	<p>交流会を通して新たに話せた人が居たので、そこから双葉郡内の結束を深めたり、自分自身の積極性を高めることができたから。</p>



<高校生>	
バーチャル配信について学び、発信の仕方とはとも多いことを知った。 何かを発信するときにこういったツールがあるということ。	その当時、自分は情報発信といったら SNS くらいだと思っていたから
<大学生>	
やりたいことは全力でやる。	その道の一流の人に会うと分野は違えど自分の領域に関する熱量が常人と違うことが分かったから。
(4) 中学校、高等学校の「ふたば生徒会連合」の活動	
①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	②その理由（どうしてそう思うのか）
<中学生>	
話す力	最初は何もしたくないだったけど、最近は何でも、やってみたいなどと思えるようになってきたから。
ビデオ会議は楽しく交流ができた。各学校の取り組んでいることが分かって、参考になった。コミュニケーション力や話す力が身についたと思う。	最初は空気に飲み込まれて発言することができなかったが、場数をふんで自信がついて話せるようになったから。
テレビ会議などで、たまに、とてもコミュニケーション能力が高い生徒さんがいるので、コミュニケーション能力を高めたいと思った。	誰かと話すときに、たまに、小さい声で話してしまうことがあるため。
<高校生>	
人と協力してひとつのものをつくりあげようとする力	サミットがスムーズに進行するように連携したり、生徒会企画を自分の学校だけでなく、他校の生徒会メンバーと話し合いをして準備して当日成功させたりすることができた経験があるから
<大学生>	
協働することの大切さ	遠隔ミーティングなどやることは大変でも一つの行事と一緒に運営し成功した時は達成感がある。
2. これらの行事をふくめた、ビジョンの取り組みで、「こうすればもっとよりよいものになるのではないか」「子どもたちに力がつくのではないか」と考えることがあれば、それは、どのようなことですか？	
<小学生>	
自分の町のことを紹介してみんなに楽しく知ってもらいたいです。 みんなと話す時間を増やす。	
<中学生>	

他の学校の人と話をする機会があると楽しめると思う。	
<高校生>	
生徒会連合主催の企画は、続けてほしいです。企画、準備、運営は大変だけど、無事に成功して終わったときは、反省点はあると思いますが、達成感や充実感は、すごいと思うし、生徒会連合でない生徒たちも、この企画のおかげで他校の子と打ち解けられたりする大切な時間なので、やり続けてほしいと思います。	
<大学生>	
「ふるさと創造学サミット」に関して、他の学校の発表は結果しか知ることができず、そこに至るまでの過程を100%知ることにはできない。だから、「ふるさと創造学」の活動としてどのような活動を行っているのかなどを中間報告的に交流できたらより深い学び合いの場ができるのではないだろうかと思う。また、基本的に「ふるさと創造学サミット」がゴールとなるのでその先でも何かしらの活動を続けることで年間を通した学習ができれば良かったと思う。	
<社会人>	
先生方の意見の反映をもう少し抑え、必ずしも答えの出るものにしないで良いのではないかと思います。 発表や成果の披露に着眼点が年々移っていつてしまっている印象を持っていました。綺麗な形にならなくても良い、一見形をなしていなくても子どもたちの議論のあとなどが見ることができればそれは立派な発表になると思います。	
3. あなたが通学する小・中・高等学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」の学習で、①勉強になることはどのようなことですか？ ②どうして、そのように思いますか。	
①勉強になることはどのようなことですか？	②どうして、そのように思いますか。
<小学生>	
自分の町の現状を見て知って、疑問に思うことをしらべて改善していくための考えること。	資料を見て知ってそれをまとめることできるから。
<中学生>	
川内村にあるいろいろな物について、それに関わっている人たちの思いや考え。	川内村の物について関わることができなくても、関わっている人たちの思いはどんなことかを知ること、とてもいいことだと思ったから。
<高校生>	
・町の人々の生の声を聞けること ・震災前の町についても知れること	震災前の記憶が無いに等しいから。 本当の思いを知ることができるから。
<大学生>	
自分が気になる分野に対して、追求し続けることで、新たな発見が見つかること。故郷の可視化された問題や見えない問題について提示することが出来るようになること。	班活動であるため、友人の意見、先生の意見を取り入れながら活動が出来るため。自分にはない考えや意見によって発見も増えるため。
<社会人>	

<p>双葉郡の現状を知り、東日本大震災について学びを深めることができ、とても勉強になりました。</p>	<p>フィールドワークや探究活動で、東日本大震災で最も被害を受けた、双葉郡の現状を知りました。東日本大震災で、休校にならざるを得なかった、双葉郡の5つの高校の想いが託された、ふたば未来学園に通っていたからこそ、東日本大震災を自分事として考えなければいけないと思っていました。そのため、中学生の時までは震災について深く知ろうとはしなかったのですが、高校生になり絶対に風化させてはいけない災害だと考えるようになりました。</p>
<p>4. あなたを始めとする双葉郡内の小中高校生が、①これからさらに勉強していかねばならないと考えることはどのようなことですか。②どうして、そう思いますか。</p>	
<p>①これからさらに勉強していかねばならないと考えることはどのようなことですか。</p>	<p>②どうして、そのように思いますか。</p>
<p>&lt;小学生&gt;</p>	
<p>自分の町だけでなく、大熊町以外の所で何ができるのか、そして東日本大震災で他の所はどんな被害を受けたのか知りたいです。</p>	<p>そのことを知って自分に出来る事を考えたいです。</p>
<p>&lt;中学生&gt;</p>	
<p>復興についてや原発、町村のこれからについて考えます。</p>	<p>まだまだ知らないことがたくさんあるので勉強していきたいです。</p>
<p>&lt;高校生&gt;</p>	
<p>震災の教訓をどう生かすか、自分自身には何ができるか</p>	<p>各個人が自分事として考えていくべきだと考えるから。</p>
<p>&lt;大学生&gt;</p>	
<p>東日本大震災が起きた日、何が起きたか、そしてそこからどのようにして現在の姿へと立ち直っていったのかを勉強すべきだと思う。</p>	<p>あの震災を経験した子供が減っていく（震災以降に生まれた子供たちが増える）のは明確ある。だからこそ、あの日何が起きたのかを伝えてこれからの防災や減災という方面での教訓になるだろうし、そこから今ある命の大切さを知ってほしい。また、それだけで終わってしまうとただ悲劇のまま終わってしまうからそれからどのようにして復興して今の街、地域の姿になったのかをそこに関わった人の話、その復興までの資料（新聞記事）などを用いた学習をすることでもっと自分が住んでいる街に誇りを持つことができるのではないだろうか。</p>
<p>&lt;社会人&gt;</p>	

<p>東日本大震災と原発事故を風化させず、自分事として考えられるような勉強を取り入れて欲しいと考えます。</p>	<p>これからの小中高生は、東日本大震災を経験していても記憶にない人が多いと思います。その子たちに、双葉郡は、地震、津波、原子力災害で被害を受けた場所だと理解してもらい、双葉郡の中高生だからこそ、この出来事を忘れてはいけないし、風化させないように工夫していかないとはいけません。また、東日本大震災を通して、学びを深め、いつ起きるか分からない災害をいち早く、判断し行動できるよう防災意識を高め、自分が先頭で誘導するぐらいの気持ちを持ってもらえるような人になってほしいと思います。</p>
<p>5. あなたが通学する小・中・高等学校の素晴らしいと思うこと、自慢したいこと（生徒や先生のこと、学習や生活のことなど）は、どのようなことですか。</p>	
<p>&lt;小学生&gt;</p>	
<p>勉強の内容が分かりやすいし、覚えやすい。校舎がきれい。校庭が広い。人数が少ないから、色々な思い出や経験ができるから楽しい。みんな遊んでくれる。</p>	
<p>&lt;中学生&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生と生徒の距離が近い</li> <li>・生徒1人1人が、思いやりの心を持っている</li> <li>・学習では、楽しく生徒の興味をそそる内容だ</li> <li>・先生方は生徒のことをかなり考えてくれている</li> <li>・地域密着方で地域の人との交流が多い</li> <li>・自分の得意分野を学校側は十分に理解しそれを伸ばしてくれる</li> <li>・生徒のやりたいを優先してくれる</li> </ul>	
<p>&lt;高校生&gt;</p>	
<p>自分の興味のあることについて学び、アクションを行える探究活動があること。      海外研修や国内研修の機会が沢山あること。      総合学科だからこそ幅広い人と仲良くできること。      先生がフレンドリーなこと。ICT機器の環境が整っていること      シアターがあること。カフェやラボがあり、大学生と関わる機会があること。</p>	
<p>&lt;大学生&gt;</p>	
<p>少人数のクラスではあったが、クラスメイトはもちろん先生も含めて一体となっていたという印象が卒業してから4年経つ今でも鮮明に残っていること。それぞれが普通の勉強以外での課題を持ち、それぞれがそれぞれの経験を積んできたからこそ、生み出された絆だったと言えるし、同じ故郷を持つ者どうしで生活することは心の栄養になった。小規模というのもあるだろうが、学校に通う全員の心の距離が非常に近かったのは楽しい三年間を形成する大きな要因だったと思う。</p>	
<p>&lt;社会人&gt;</p>	

ふたば未来学園は設備やカリキュラムが整えられていて、素晴らしい環境で3年間勉強してきました。特に、与えられたことを自分たちで自由に考えることができ、自主性を推進してくれるので、いい意味で自由に学習できたことは、とても良かったと思います。

(イ)教職員、教育関係者

※主な意見

【学習に関して】	
1. 「ふるさと創造学」などの、双葉郡内の小中高生が、みんなで取り組んでいる双葉郡 教育復興ビジョンの取り組みについてお聞きします。次にあげる学習を通して、子どもたちには、①どのような力が身についていると思いますか。ものの見方や考え方はどうでしょうか。②どうしてそう思うのか、できればその理由もお願いします。	
(1)各学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」	
①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	②その理由（どうしてそう思うのか）
課題解決に必要な知識・技能、ふるさとの特徴や良さの発見、課題を立て情報を集め整理・分析する力、多面的思考	子ども達の探求する姿、探求の成果としての発表を聞いて、高まりを感じたから。
ふるさとを愛する気持ち。ふるさとに住む人をいとおしく思う気持ち。そこに働く人々を敬う気持ちなど。ふるさとや地域社会を見る力。地域の課題を見つけ、解決しようとする気持ち、力。自分の考え等を発表する力など。	学習を進めていく中で、学校の中だけでなく、外に出て地域の人と交流する機会や学習成果発表の場があることなどから。また、以前勤めていた学校で、「将来は、ふるさとの復興に関わりたい。そう考えるようになったのは、「ふるさと創造学」の学習を始めてからだ」という生徒の言葉を聞いたことなどから。
・表現力が身についているように感じる。ふるさとに対して探求していくことを通してふるさとの将来について考えることができている。 ・他方で、本町では震災後、新たに他地区から転入してきた子どもたち（保護者）が多く、ふるさとについてどこか他人事のように考えてしまっているように感じる。	・表現力については、サミットでの発表が控えていることもあり計画的に指導が行われているのが大きな要因であると思う。 ・子どもたちだけでなく現場で指導する教職員の地域理解が不十分。震災前の地域性への探求が不十分なために、どこの自治体でも行われているイベント的なものに焦点が当たっており、子どもたちが主体的（自分事として）に学べていない。
自分で決めたテーマ（課題）を解決していくために、自分には何ができるか、またはどのように考えれば解決に向かうことができるかを考える力が身に付いてきていると思う。	生徒一人一人が決めた自分のテーマに沿って、ただ調べるだけではなく、自分自身で解決に向けて実際に何かをまとめたり専門家や関係機関に働き掛けて課題を解決しようとする体験を積み重ねてきたから。
地域に対する理解を深め、関連する課題の発見に努め、その解決に向けて協働的に探究する力	ふるさと創造学で学んだ事柄を社会に向けて発信する子ども達に様子や発表に取り組む姿勢を垣間

を獲得し始めているように思う	見たときに、地域に関する理解の深まりやそれに伴う課題に向けた改善案等の提案の中に読み取れる
(2) 年末に開催される「ふるさと創造学サミット」	
①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	②その理由（どうしてそう思うのか）
自分の意見や考えをまとめ、発表する力や、相手の考えから学ぶ意識など、双方向のコミュニケーションをとる態度を身に付けている。	時間をかけて準備をすることで、自信を持って発表することができるし、発表の形が確立しているので、相手の発表をしっかりと聞くことができているから。
各地域ごとに特色のあるテーマが設定されており、他校の発表に興味をもって耳を傾ける力がついてきたと感じる。テーマに対してそれぞれの学校が進めている調べ学習の進め方を見て自分の学習に生かそうとする姿がみられた。	自分たちが進めているテーマと似ている学校の発表を聞いた後の学習では、新しく知った調べ方を実践しようとする意欲が見られた。
他校の取組み、双葉郡の他町村に関心を持つということ。他校との関わりがあることで、自分たちの学校のよさを見直す力がついてきている。	自分の学校では体験できないことを見る機会を持てたから。普段関わることのない学校と交流することができるため。
各学校で取り組んできたふるさと創造学での学びの成果を発信するとともに、他の学校や異なる学年の発表を交流させながら、広い見地で地域を捉え直し、そこから地域復興の新たな知恵を交換し学び始めているように思う。	「ふるさと創造学サミット」で異なる学年の発表に興味を示し感心しあう子どもたちの姿は、自分たちの成長モデルを見つけているようにも受けとめられる。また、子どもたちの発表は、大人や社会にキャッチされている実感は確かなものにしており、それがさらなる探究心を刺激することへの展開にもつながっていくはずである。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者として、相手意識と目的意識をもって発信する力。</li> <li>・発表を聞く側として、相手の伝えようとしていることを捉え、自分の町村と比較して考える力。</li> <li>・双方向での学び合うことによる主体性・協働性・創造性といった力。</li> <li>・他校の生徒の前で発表することによる自信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと創造学が、発表する場、発表を聞く場としてバランスをとったものになっていると考えられるため。</li> <li>・特別支援学校にとっては、外部での学習成果の機会は、数少ない重要な場であるから。</li> </ul>
(3) 小学校の「絆づくり交流会」（中高生は「中高生交流会」）	
①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	②その理由（どうしてそう思うのか）

<p>・他校生と接することで、他者の考え方や協力する大切さなどを学んでいる一方、その場だけで楽しく過ごしている生徒もいる。</p>	<p>・講師（講義）の内容にもよるが、楽しければいいという生徒もいる。また、希望通りに参加できない生徒はつまらない時間を過ごしているのは事実である。</p>
<p>一人ではないという体験と認識。集団で遊んだり、活動したり、学んだりすることの楽しさ（大変さ、難しさも）。新たな視点、考え方、感じ方などの学び。</p>	<p>同年代の友だちとの交流の機会、国内外で活躍する人とのふれあい、話を聞く機会があることなどから。</p>
<p>なかなかあえないようなオーラをまとった方々と同じ時間を共有するだけで、前向きな刺激を受け、見方・考え方も変わったと思います。</p>	<p>一昨年へのみの参加のため、その年の経験からしか書けませんが、秋元康さんが、そのとき最も輝いている旬の人を呼んでくださっていることが大きいと思います。人間的な魅力が言葉の端々から伝わってきて、講座の前後で見方・考え方が違ったという生徒の話を複数聞いています。</p>
<p>集団による行動規範、社会性、活動の喜び、自分を取り巻く大人達に対する感謝の心</p>	<p>広域なイベントとして、多くの大人（教職員、サポートスタッフ等）が関わって、子供たちどうしの交流が思いで多き内容になっている。普段では味わえない「学び」「体験」</p>
<p>・町村の垣根を越えた仲間づくりという趣旨に沿って、積極的に新たな交友関係を広げようとする力 ・町村や世代をこえて交流することにより、ふるさとの誇り・地域の絆を育む力。</p>	<p>・双葉郡内の教職員が連携し、子どもたちが必ず複数で取り組むことになる企画を検討し、実行している様子がうかがえるため。 ・R2は開催できなかったが、例年貴重な交流の機会となっているため。</p>
<p>(4) 中学校、高等学校の「ふたば生徒会連合」の活動</p>	
<p>①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。</p>	<p>②その理由（どうしてそう思うのか）</p>
<p>・リーダーとしての自覚をもって参加している。他校と交流する中で、各学校の取り組みから自分の学校にないものを取り入れたり、改善したりしている。そこから思考力や創造力は育っていると思う。</p>	<p>・集会などで他校の取り組みを紹介したり、取り組んだりしている。</p>
<p>自分たちで考え、行動しようとする力。自分たちの集団や学校、地域をよりよくしようとする意欲など。</p>	<p>意見交流の場、自分たちの企画等を実現する場があるから。それらは、自分たちの生活や学習を振り返り、考えることになるはずだから。</p>

<p>生徒会役員中心ではあるが、定期的開催されることで、視野が広がっているように感じる。</p>	<p>各学校との情報交換により、視野が広がっている。日常の生徒会活動でも、他校での取り組みなどが話題にあがることがあると、生徒会担当から聞くことがある。会議に参加することで、役員としての自覚が高まった生徒も見られる。</p>
<p>双葉郡の中学校や高等学校が、それぞれに培ってきた文化・伝統・歴史があるという事実に関する理解力、またそれら学校の変遷とその背景に関わる社会的認識力等を獲得する契機に、「ふたば生徒会連合」はなると思われる。さらには、それらの理解や認識を土台にして、現在、「ふたば生徒会連合」が果たす社会的責任についても考え学ぶ機会になるのではないかと思う。</p>	<p>生徒会連合として、一地域を指す「双葉」の名称を採らず「ふたば」の名称を採用したこと自体に次の方向性が示されている。大震災前にあった多くの学校をめぐって、大震災後にながく「休校」措置が続き、新入生の募集停止がなされた経緯を見ながら、新たに創設された学校の生徒会が登場した事実を、双葉郡の歴史の中に位置づけ、双葉群全体としてそれぞれの学校の大事な歴史を継承しようとする方向性が表れている。各校の校旗等を引き継いでいることも同様の趣旨の表れである。</p>
<p>特にサミットや交流会で、学校の代表として司会進行等を担当することで、双葉郡の一員であるという意識が強くなってきていると感じる。</p>	<p>ふたば生徒会連合として年間を通して活動しており、連合という組織に属しているという感覚が根付いてきており、連合として、双葉郡全体の活動を引っ張っていくという意識がたかまっている気がする。</p>
<p>2. これらの行事をふくめた、ビジョンの取り組みで、「こうすればもっとよりよいものになるのではないか」「子どもたちに力がつくのではないか」と考えることがあれば、それは、どのようなことですか？</p>	
<p>大人がやってあげる、活動を用意してあげることから、当事者である児童生徒が立案し、準備するように変えていけないか。次第に子ども達自らがつくる活動にしていきたい。</p>	
<p>震災から10年。ビジョンそのものの行事の見直しが必要だと思います。 大震災・原発事故の知らない児童が多くなってくる。それを踏まえた上での取組。何を伝え、何を育てていくのか。</p>	
<p>・震災から10年がたち学校現場には震災の記憶が残っている子どもたちが少なくなっている。現在の取組は形骸化しているように感じる部分もあるので、これからの10年を見据えた新しい計画が必要だと思う。今後、少子化や過疎化で各校の子ども的人数が減っていくことが想定される。そういった状況の中で質の高い教育を実現していくためには町村間の連携が重要だと思う。小教研や中教研といった学校を越えた教員の研修(交流)の場をつくり、ネットワーク化することで、教員が主体的に話し合いを行い、双葉郡内の教育的課題を共有し、解決に向けて協働していくことが重要だと思う。</p>	
<p>取り組み自体は子どもたちにとってとても有益なものと考えます。問題はそれをどう持続していくかだと思います。学校の教育活動の一環として行う以上、子どもたち、学校にとって負担過重とならないように見直し、継続していけることが大切だと思います。</p>	



<p>「ふるさと創造学サミット」や「絆づくり交流会」・「生徒会連合」での経験をゆっくりと省察する機会を子ども・保護者・地域住民・教育関係者の中で設定すると、ビジョンの取り組みの意図や成果を共有することができると同時に、関係者が子どもたちの未来を考える貴重な機会になり新しい学校と地域の関係も拓かれていくように期待する。</p>		
<p>3. あなたの小・中・高等学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」の学習で、特に大切にしていることは、どのようなことですか？（教員でない方は、大切にしてほしいことを）</p>		
<p>子どもの自主的な探求のスパイラルを生むこと、ふるさとの良さを知り、愛する心を育むこと、地域との交流と連携。</p>		
<p>地域や社会をよく見て、人々の声をよく聞き、自分なりに課題を見つける力の育成を大切にしたい。そして、それを解決する方法を考え、実践する力の育成を大切にしたい。教員がそれらを示すのではなく、子どもたち自身に考えさせるようにすることを大切にしたい。自分自身でテーマを見付けること。そして、そのテーマをどのように解決していくことができるか、さらに、自分自身には何ができるか等について考える力を育むこと。</p>		
<p>震災からの復興に取り組む過程で、地域の大人たちが、町や村のことを真剣に考えて様々な取り組みをしていることを実感させ、その地域に生きる一人として、その取り組みの中に、小学生の自分ならどんな関わりができるか考え、できることから協力していこうとする態度を育むことを大切にしています。</p>		
<p>「伝えたい」という児童生徒の思いを大切に、学校のこと、児童生徒のこと、地域のことを知ってもらえる機会になればと思います。伝えたい相手がいること、伝えたことで相手を感じたことを知るなど、人とのかかわりやつながりが広がっていくことを期待します。</p>		
<p>地域の歴史と変遷を理解し、これからの地域社会を創造する担い手として、発達段階に応じて課題を考え改善案を模索し、学びの深化に応じてそれら提案を修正していける様なアクティブ・ラーニングを展開してほしい。その観点からも、発達段階に応じながら、子どもたちの学びの展開過程を子どもたちと一緒に振り返りながら新たな創造の種を見つけ出すように、年度ごとの取り組み事業を振り返ってみることも面白いかもしれない。学校現場は多忙化している中では、最初はインナーサークル的な活動になるかもしれないが、そうした継続的な視点で各年度の取り組みを追ってみると、子どもたちの成長やそれを支える＜学びあい（絆づくり）＞構造がわかり、関係者達の成果確認につながれば、多忙観を越える新たな活力もわいてくるように思う。</p>		
<p>4. 双葉郡内の小中高校生が、①これからさらに勉強し、身につけていかなければならないと考えることは、どのようなことですか。②どうしてそのように思いますか。③そのためには、どのようなことが必要と考えますか</p>		
①これからさらに勉強し、身につけていかなければならないと考えること。	②どうしてそのように思うか。	③そのためには、どのようなことが必要か。
苦手なことや困難なことにも、強くたくましく、乗り越えていく力。	東日本大震災以降、大きな被害を受けた双葉郡の子どもたちだからこそ、強くたくましく成長してほしいと願うため。	自分で考え、判断し、行動できる子どもの育成。

正しい震災の歴史と放射線教育について、身につけなければならない。	地元ではない子供たちが増える中、その中でも忘れてはいけないものや正しい知識をまた人に伝えていく必要があるため。	郡全体で共通した震災の歴史と放射線の教育が必要。
・自分の思いや考えを主張（伝える）できる力 ・他者との違いを受け入れ調和（調整）できる力	・同年齢の様々な価値観の中で、自身の考えを主張することは大きな労力を要し、それが学びにつながると思う。また、多様な価値観の中で不偏（共通）のものを見つけ出し、調整する力もこれからは大事になると思われる。	・学校間(町村間)交流を積極的に取り入れていく。同年代の交流も大事にしていきたい。特に児童数が学年1桁のようなところはオンラインなども活用して積極的に交流を図っていく。 ・学校間交流を活性化するためには、教師間交流が重要になってくる。子どもたちの学びのために教員が学校間の垣根を越えて一致団結していく必要があり、そういった場を設けることが重要だと思われる。
復興に力を入れるのではなく、創造性をもって新しいものを生み出していくこと。	震災以前の姿を目指すのではなく、新しい双葉郡の担い手となってほしい、	地域課題を小中学生から地域の方々と考え、実際に解決に向けたアクションを起こす。自身が社会に求められ、活躍しているという自覚を促す。
地元、県、国など様々な変化や課題に積極的に向き合い、多様な視点から思考・判断し、他者と協働して課題を解決していくこと	予測困難な時代をたくましく生き抜いていくため	他者と協働して課題を解決していかなければいけないような状況を意図的に教育課程に位置づけることと、教員自身も学んでいくこと
<b>【全般に関して】</b>		
5. 下記について自由にお書きください。		
①あなたの小・中・高等学校の素晴らしいと思うこと、自慢したいこと。	②双葉郡の教育に関してのご意見など。	
教職員が意欲的で、前向きに取り組む。少人数を生かし、教職員と生徒の距離感が近い。	生徒会や部活動等での交流活動が難しい現状として、教育復興ビジョンが果たす学校間をつなぐ役割は大きいと考えます。	

<p>一番のよさは、授業である。先生方は本校独自の複雑なカリキュラムに対応するだけでも大変な中、生徒のよさを引き出し、生徒のモチベーションを高める授業設計に力を注いでいる。どうしても特別な活動や施設が注目されるが、最も自慢したいのは、総合的な学習の時間を含めた、先生方の授業である。</p>	<p>非常に難しい教育課題を多くの学校が抱えているのではないかと推察されるが、そんな中各学校が一体となって双葉郡として独自の取り組みを行っているのはすごいことだと思います。</p>
<p>児童生徒の素直さ。一生懸命なところだ。</p>	<p>震災や原発事故、避難生活などの経験をマイナスに捉えるのではなく、地域をよりよくしていくために必要なことを考え、実践しながら前向きに進んでいける力を育てていけたらと思います。</p>
	<p>双葉郡の教育実践は、契機の一つが東日本大震災に求められるにしても、取り組んでいる内容は2030年頃の日本が抱える教育的課題にチャレンジするものである。この取り組み自体、世界的な教育課題も視野に入れた実践とも言える。日本をリードする教育改革の一翼を担ってほしい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国に先駆けて地域の小・中・高・特支が連携し、地域課題探究活動を行っていること。</li> <li>・関係機関と連携し、地域に貢献できる学校づくりに取り組んでいること。</li> <li>・子どもたち一人一人が生き生きと学習活動に取り組んでいること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「双葉郡の教育」を、双葉郡で生活する子どもたちのための教育にとどめることなく、双葉郡以外の県内外の子どもたちへの発信・交流により、震災の記憶の継承や新しい教育の波及につなげてほしい。</li> <li>・富岡支援学校は、令和6年度中に双葉郡内での再開を目標に準備を進めているため、地域のご協力をお願いしたい。</li> </ul>

(ウ) 保護者、地域住民

※主な意見

<b>【学習に関して】</b>	
<p>1. 「ふるさと創造学」などの、双葉郡内の小中高生が、みんなで取り組んでいる双葉郡 教育復興ビジョンの取り組みについてお聞きします。次にあげる学習を通して、子どもたちには、①どのような力が身についていると思いますか。ものの見方や考え方はどうでしょうか。②どうしてそう思うのか、できればその理由もお願いします。</p>	
(1) 各学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」	
<p>①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。</p>	<p>②その理由（どうしてそう思うのか）</p>
<p>ふるさとを学ぶ機会となっている。実際に行ったことのないふるさとではあるが、先人たちが</p>	<p>原発事故による放射能汚染で避難しており、子どもたちが以前の双葉郡の生業を直接学ぶことがで</p>

大切に思っていたことに気づくことができている。	きなくなってしまった中、貴重な機会となっている。
行動力と調べる力がついたと思う。 今日の前に見えてる町から目に見えない過去の町を知ること、未来の町の姿を考えるようになってきていると思う。	ふるさとを知るためには、たくさんの住民の方に話を聞いたり、古跡等を調べたりと自ら行動しなければ、なし得ないからです。 行動したことで、たくさんの事が学べた楽しさ嬉しさを実感し、また新たな事に取組む積極性も生まれると思う。
地区探求という活動から衣食住への関心が生まれ、また地域住民とのつながり等から、社会性が生まれているように感じます。	津波避難のための橋の建設、玉ねぎ生産、稚魚の放流など、町づくりや農業・漁業の復興に興味を持つようになった。地域の方とあいさつをし、自然と会話している。
コミュニケーション力、情報収集・分析力	地域の方々への取材等で、基本的なあいさつからはじまり、質問、回答などを通して、コミュニケーションの力が養われたと思うから。 また、自分の設定したテーマに対し、どのような方法で情報を収集するか、得られた情報をどのように活用するか、試行錯誤しながら最善の方法を見つけられたと思うから。
自分の住んでいる村の事を勉強し、村を好きになったと思う。人につたえるという事で、文章を丁寧に書く事によって国語力が上がったと思う。	避難して村に愛着が無かったのに村の事を自分よりもくわしく語っていたから。
(2) 年末に開催される「ふるさと創造学サミット」	
①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	②その理由（どうしてそう思うのか）
主体的に考え学ぶ実践力、他者に言葉を伝えるためのコミュニティスキル	教師からではなく自分から課題を見つけ、それを解決するための手立てを考え実践していたから。 また、自校の調べて分かった事を他者に伝えるようにまとめ、わかりやすく伝える事ができていたから。
自分の町の良さを発信したり、双葉郡内近隣の町の良さに気づいたりすることができている。避難先にいても、帰還してもふるさとを大切に思う気持ちは変わらないと思うが、帰ることを良しとするものの考え方をさせているのは非常に不安だ。	「町に人が戻るためにはどうすればいいのか」という問いは、原発事故による放射能汚染の実態を踏まえて行ってほしい。
たくさんの人の前で発表する事で自信がつくと思う。また町外の歴史や特色を知る、学ぶ力も	発表することで、みんなに認められることが自信につくのではと思ったから。

身につくし、自分と違う他者の考え方を受け入れたり新しい情報に興味関心が芽生えているように思う。	また、他者の発表を聞くことで、自分との違いを知るのも大きな学びになると思う。
普段とは異なる会場で友人と協力しながらプレゼンをしたり、他校のプレゼンを見聞きしたりすることで、自己表現力がついてきた。パソコンやパワーポイントを使ったプレゼン力が伸びた。	自宅でも、自分の意見を踏まえての相談や日々の学校での出来事を話してくれ、また、親の意見を求めるようになった。
多様性の認識と理解	学校は違えど同じ境遇にある双葉郡内の学校と交流するから
(3) 小学校の「絆づくり交流会」(中高生は「中高生交流会」)	
①子どもたちにはどのような力が身についていると思うか。物の見方や考え方はどうか。	②その理由(どうしてそう思うのか)
知らない人が多い、その場での適応力 友達の作り方	学校の友だち以外との交流がとても楽しいみたい すぐに仲良くなれたりするのは素晴らしい 双葉郡内の子供の交流があるのは、親としてもとてもありがたいし、嬉しい 見に行きましたが、楽しそうで安心した
原発事故による放射能汚染のために分断された コミュニティを守る一端となっている。	避難先でも帰還してもふるさとを大切に思う気持ちは変わらないと思うので、避難先にいる子どもたちと帰還した子どもたちが一緒に交流できる機会は貴重だと思う。
自分と違う考え方の意見を聞いてまとめる力が 身に付いたと思います。	色々な著名人の貴重な話を聞くことができたり、他の学校の生徒の話を知ることができるからだと思います。
少人数の学校なので、絆づくり交流会で初めて 出会う他校生から大いに刺激を受け社会性が 育ってきている。	絆づくり交流会で友達ができただけから。
コミュニケーション力、表現力	他校の生徒との交流、講師との交流を通して、自分自身を知ってもらい、また、相手を知る力が養われたと感じるから。
(4) 中学校、高等学校の「ふたば生徒会連合」の活動	
①子どもたちにはどのような力が身についている と思うか。物の見方や考え方はどうか。	②その理由(どうしてそう思うのか)
物事を深く考え追求する力	他校の生徒の考えを認めたり取り入れたりし、自校で出来る事を考えているから。
生徒会連合、もう響きがカッコいい 自分にとっての誇りになると思う 自尊心を育てる	選ばれた人しかそこには所属できない しかも郡内生徒会のみならず、中高生にとっての すごい組織。

責任感 協調性	同じ双葉郡として他校の状況等を理解しながら共有が出来るから
ポテンシャルや得意・不得意には個人差があることを再認識したうえで、互いにとっての最善を見つける力	自分の得意を押し付けるのではなく、互いを思いやりながらも最善を探すという決して簡単ではない行動を必要とする活動だから
コミュニケーション力、表現力	他校の生徒会との交流を通して、自分たちの活動を知ってもらうためにはどのように表現したらよいかを考えることができたと思うから。 また、他校の生徒会の活動を知ることによって新たな気付きや発見があり、それを自分たちの活動に生かすことがあったと考えられるから。
2. これらの行事をふくめた、ビジョンの取り組みで、「こうすればもっとよりよいものになるのではないか」「子どもたちに力がつくのではないか」と考えることがあれば、それは、どのようなことですか？	
どの活動においても、他校の児童や生徒との関わりを今以上に密にしていけば互いに刺激を受け合い、競争心を掻き立てたり畏敬の念を抱いたりし、さらに良くなると思う。少人数校だと意見が少ない事で話し合いが深まらない事が多い。特に、自分の考えを否定されたり、違う意見に論破されたりする経験が少ない。大規模校に行った時にコミュニケーションが取れなくなる事も防げると思う。	
避難先でもふるさとを大切に思っている子どもたちや親はいるので、そういう人にもこれらの行事に何らかの方法で参加できる仕組みを作ってほしい。	
自然豊かな双葉郡で課外授業等を実施すれば子ども達が故郷についてもっと興味を示してもらえと思う。	
自分のふるさとを探求し、双葉郡内で発表したり、交流したりできるのは、とても意義多きものと考えるので、今後も継続して行ってほしいです。また、福島民報に掲載されていた何年後の町の新聞もふるさとを知ってからこそ、書ける未来の新聞でとても面白かったです。この事業と違うなら申し訳ないが、ふるさと創造学で取り組んだことをもっと多くの方に発信してほしいです。	
レゴブロックロボットプログラミング大会や、双葉郡の特産や歴史のカルタ大会等、遊びが学びとなるような取り組みがあると競争心が育つと考えます。	
3. あなたの小・中・高等学校で取り組んでいる「ふるさと創造学」の学習で、特に大切にしていることは、どのようなことですか？（教員でない方は、大切にしてほしいことを）	
自分で計画を立て、行動し、振り返ることができる力	
自分の学校や、村への想いを大切にする 自分はあらゆる面でどんなに特別な存在か、気付いてもらいたい。 他の学校の頑張りを讃える	
地域の歴史、人々の想いを大切にしてほしい。	
児童生徒が主体となって取組む事です。自由な発想と各々の観点の違いが、まとめた内容に価値が出てくると思います。小さいうちから経験される事は、課題から解決に繋がると思うからです。	
一人でやることも大切だし、子ども同士で協力し合い、何かを成し遂げる。やり遂げた達成感には自分に自信をつけてくれます。そして、関わって下さった方への感謝の気持ちを大切に。	

4. 双葉郡内の小中高校生が、①これからさらに勉強し、身につけていかなければならないと考えることは、どのようなことですか。②どうしてそのように思いますか。③そのためには、どのようなことが必要と考えますか		
①これからさらに勉強し、身につけていかなければならないと考えること。	②どうしてそのように思うか。	③そのためには、どのようなことが必要か。
コミュニケーション能力	少人数学習では、他者に自分の意見を伝えたり、聞いたりした事を生かした学習での成果が出にくいから。	ICTを活用し、もっと多くの児童や生徒、地域の方との関わりを増やす。
自分の故郷に起きた震災原発事故からの出来事。恐れるべきこと、そうでないこと。	この場所の当事者、伝えていく人間であることから。大人になるにつれ、他県民との交流もあるだろう。そこで凜としていてもらいたい	正しい知識を持ってもらいたい。 段々放射能の勉強は無くなって来ているように感じる
東日本大震災、原発事故の知識	未曾有の大震災や原発事故を経験し、そこからの復興をこれからも見つめて行く世代だから。正しい知識と情報を身につけ、これからへ繋げて欲しい。	専門家や様々な世代からの聴取
学習でも、運動でも全般に、向上心を持って取り組ん欲しい。	児童数が少なすぎて、競争心も芽生えにくいから。目標になるような人との出会いも少ないから。	他校と合同で、運動や勉強する機会があると刺激になると思う。
英語力を含めた基礎学力	社会の課題や、変化する社会情勢を理解して対応するには基礎知識は必要だと思う。地球規模で発信をしていくには英語は不可欠だと思う。	学校授業の質の向上
<b>【全般に関して】</b>		
5. 下記について自由にお書きください。		
①あなたの小・中・高等学校の素晴らしいと思うこと、自慢したいこと。	②双葉郡の教育に関してのご意見など。	
幼、小、中が連携して行事も一緒一貫校のようになっている。流行りの義務教育学校にならなくともやっていけると思う。先生方も垣根を超えて協力して頑張っているのがわかる。連絡が密。保護者も協力的で仲良しデジタ	郡内の子供は同じような経験をした境遇の子供と認識しています。そこで子供が年何回か、集まったりする機会はとてもありがたいです。過疎化する学校同士など親の交流ができる場もついでにあると、情報交換などできてよいかといつも思っています。総じていつもありがとうございます。	

<p>ル関連が充実して先進的。自治体の理解があり支援が超手厚い。</p>	
<p>避難先の会津で、放射能の不安なくコミュニティを維持していただいていることに感謝しています。大熊町の子どもたちと大熊町について学校で学べることは、子どもの成長にとってとてもよいものだと感じます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原発事故により避難や転校を余儀なくされている子どもに対して、心のケアを充実させてほしい。</li> <li>・帰還した子どもの健康面に関して、放射線対策をしっかり行ってほしい。</li> <li>・学校が帰還することで、今まで一緒に学んできた子どもたちがバラバラになり、コミュニティが壊されてしまう。コミュニティの継続のための方策を講じてほしい。</li> </ul>
<p>子供達が生き生きしてる。たくさんの貴重な体験が出来る。先生方が『わかるまで』『出来るまで』指導して下さる。</p>	<p>各町村によって生徒数が少数の所もあるため、近隣の町村と合同など子供達の立場にたった見方で進めて行ってほしい。</p>
<p>生徒を主体として活動している学校。双葉郡内の地域との交流を大事にしている。その中で、生徒が課題を見つけ、解決するために考えたり、行動したり、素晴らしいと思う。</p>	<p>とてもいい教育が受けられてると思う。</p>
<p>少人数で一人一人を思いやることができる。大家族のような学校。異学年交流、遊びの中でも豊かな人間力やコミュニケーション力を鍛えることができる。地域に開かれた学校。（昨年度からは、コロナ禍のため実施が難しくなっていますが）</p>	<p>震災後、双葉郡内の高校が一校となってしまい、今年度からは定員が160名から100名へ減ります。また、いわき市や県内外からの入学生もいるため、双葉郡内に住む生徒の入学希望者が地域枠定員に入れなくなってきました。ふるさと創造学から、しっかりとした基礎学力へもつながっていくことを期待しています。高校という選択でなくても、ご飯が食べられる自立を目指し、こども園から小学校低学年の間に、飽きずに楽しく没頭し、最後まであきらめず考え抜く力を育てれるといいと感じます。</p>



## 2.3 双葉郡教育復興ビジョンの取り組みについて

(※「(イ)教職員、教育関係者」のみが対象)

### 《達成度について》

概ね高い評価である。全15項目中7項目において「A十分達成、Bおおむね達成」が8割を超える評価。特に高いのが「ふるさと創造学の推進」「郡内8町村の教育環境の充実」「ビジョン事務局による運営」であった。

「Cやや不十分」が多かった(3割程度)だったのは、「中高一貫校との連携」「他地域との交流・連携」「教育支援体制の充実」であった。

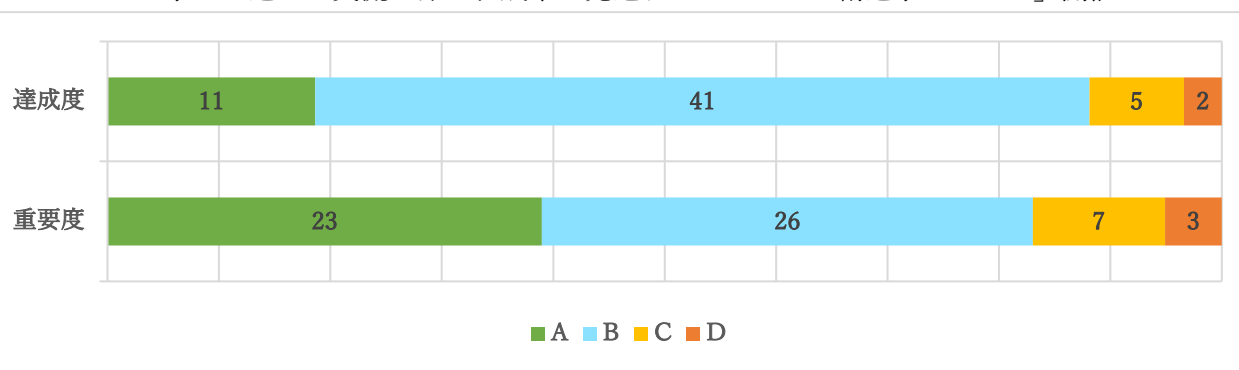
### 《重要(必要)度について》

これについてはほとんどの項目で「A」「B」が8～9割の高い評価である。特に「郡内8町村の教育環境の充実」「教職員の体制充実と指導力向上」は、98%。「子どもたちの交流」「地域コミュニティとの協働」「中高一貫校における地域コミュニティとの連携」は、9割を越える必要性が表れている。

これまでのビジョンの取り組みの成果を実感し、今後もその取り組みが重要であると感じ

(2) 「ふるさと創造学」の推進

- ・ ふるさとへの誇りと自ら未来を創造する思いを育む「ふるさと創造学」推進
- ・ 学びを通じた交流を深め、成果を発進する「ふるさと創造学サミット」開催



ていることがうかがえる。

(イ)教職員、教育関係者

※グラフ内の数字は回答者数

【双葉郡教育復興ビジョンの取り組みについて】

以下の項目は、これまでビジョン推進の「3つの柱」として掲げ、子どもたちや先生方、教育関係のみなさんが、努力してこられたことです。

A～Dのあてはまる欄に○印をつけてください。不明なところは、お答えにならなくて結構です。

① 「達成度」

A：十分達成されている B：おおむね達成されている  
C：やや不十分 D：不十分、努力したい

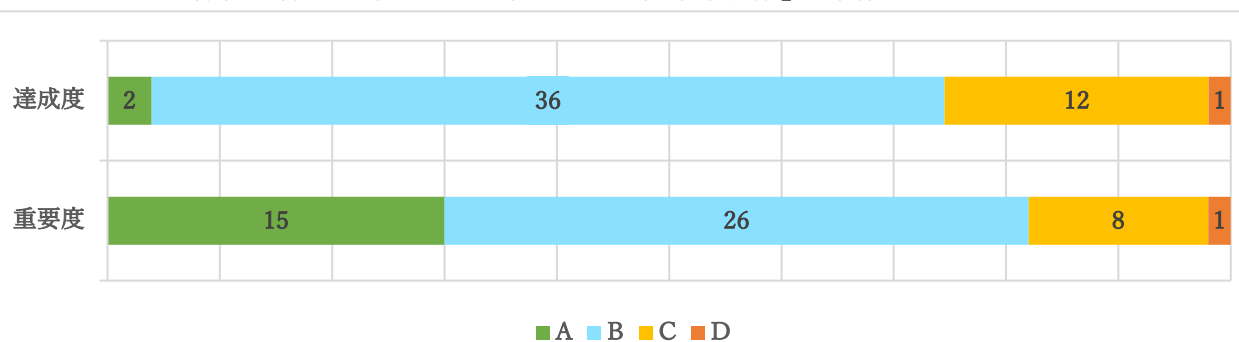
② 「重要度（必要度）」

A:さらに力を入れていきたい B:ある程度力を入れていきたい  
C:あまり力を入れなくてよい D:ほとんど必要はない

1. 双葉郡ならではの魅力的な教育の推進による人材育成（柱の1つめ）

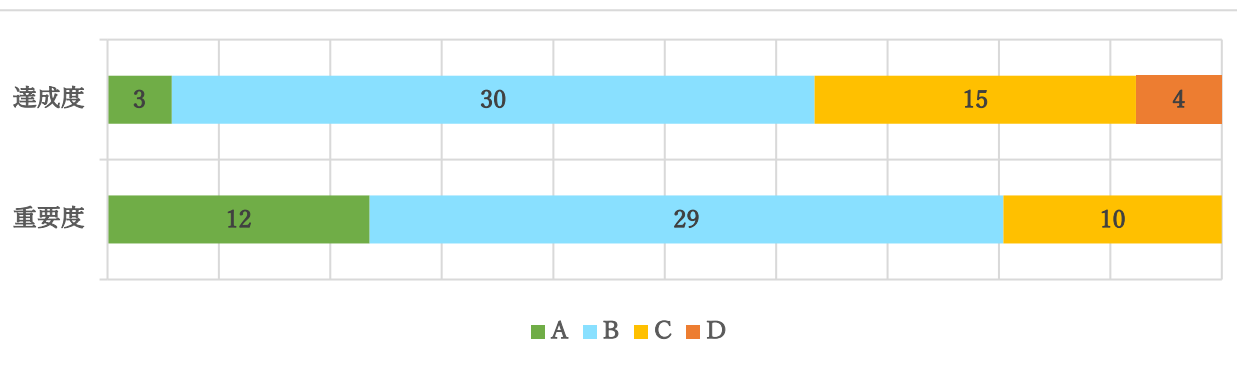
(1) 子ども主体の学びと「双葉郡子供未来会議」

- ・ 各取り組みに、子どもたちや保護者、地域の意見を取り入れるとともに、子どもたちの主体性を育み、考える力を鍛える「子供未来会議」の開催



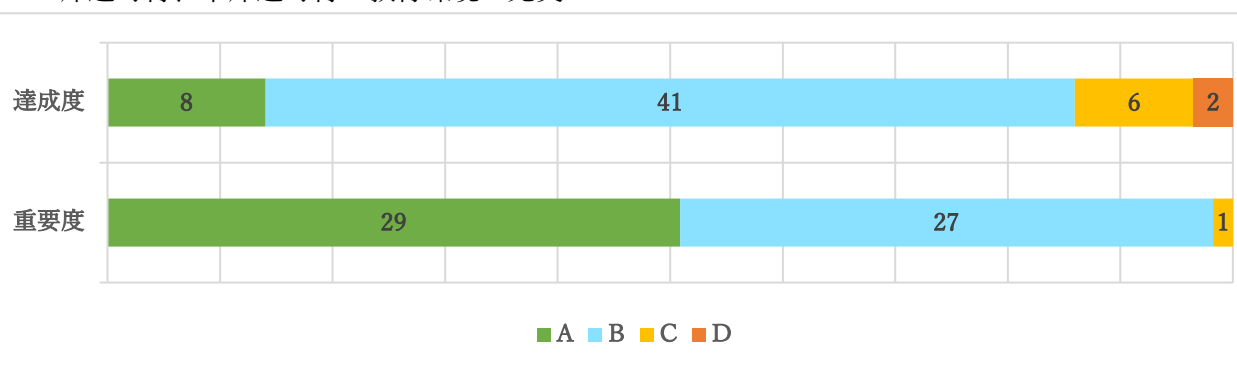
(3) 中高一貫校との連携（設置は完了）

- ・ 中高一貫校と郡内小中学校とが連携した、双葉郡ならではの魅力的な教育の推進



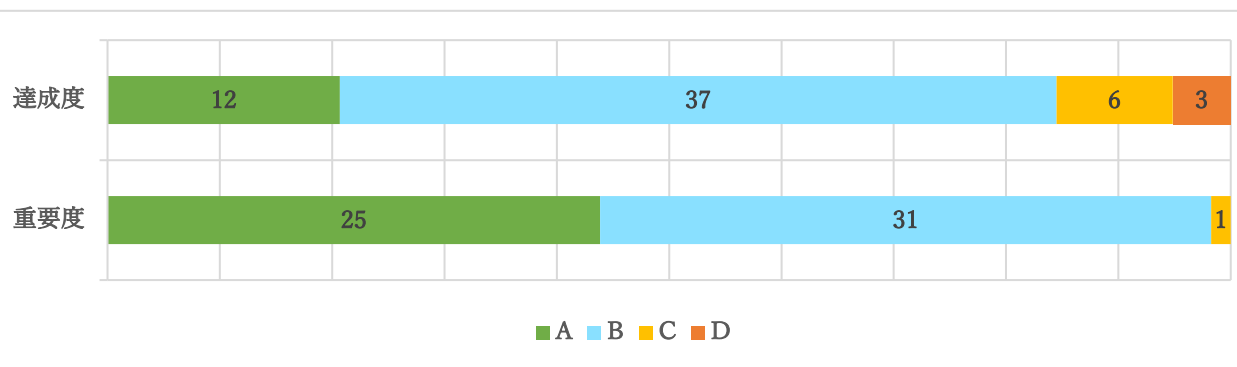
(4) 双葉郡 8 町村の学校教育環境の充実

- ・ I C T活用や英語教育など、双葉郡ならではの町村一体となった推進と発信
- ・ 帰還町村、未帰還町村の教育環境の充実



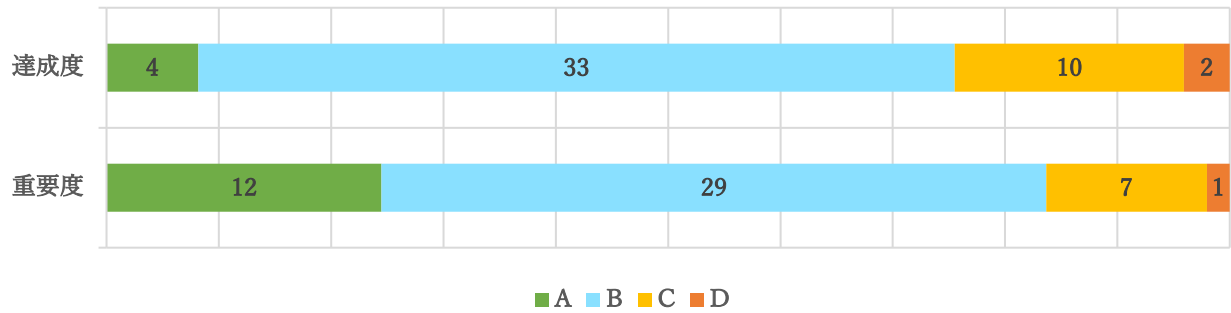
(5) 教職員の体制充実と指導力向上

- ・ きめ細かな人的教育支援体制の整備、充実
- ・ 「ふるさと創造学」等の充実、発展のための研修会等の開催



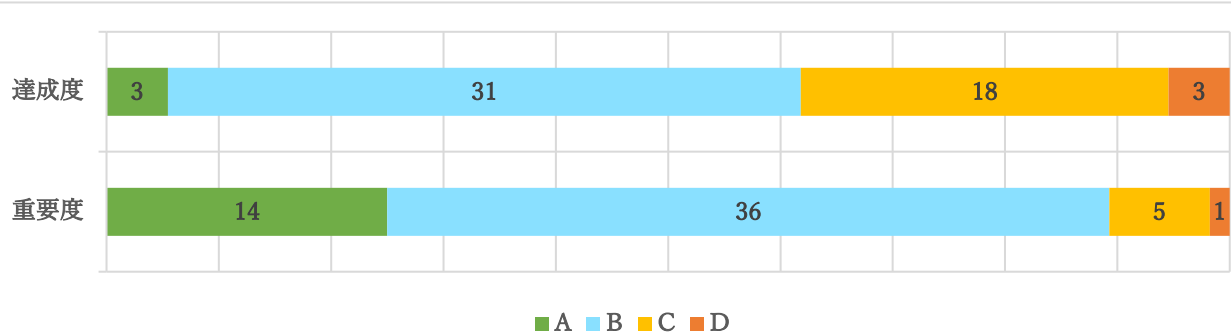
(6) 「ふたばの教育復興応援団」の協力

- ・ 多様で実践的教育推進のための、応援団による授業や部活動、行事等への支援と協力



(7) 他地域との交流・連携

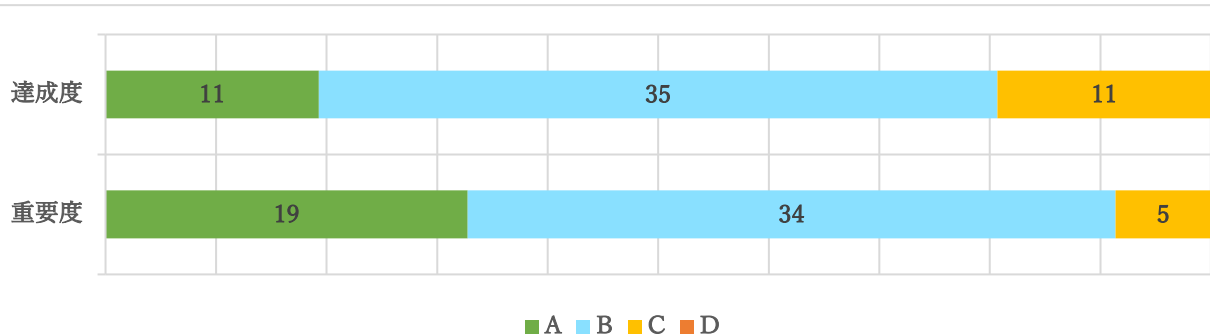
- ・ 「ふるさと創造学」充実、波及のための、県内外他地域との学習交流
- ・ 研修会参加や事例研究発表等を通じた教員交流



2. 教育を中心とした双葉郡の絆づくり（柱の2つめ）

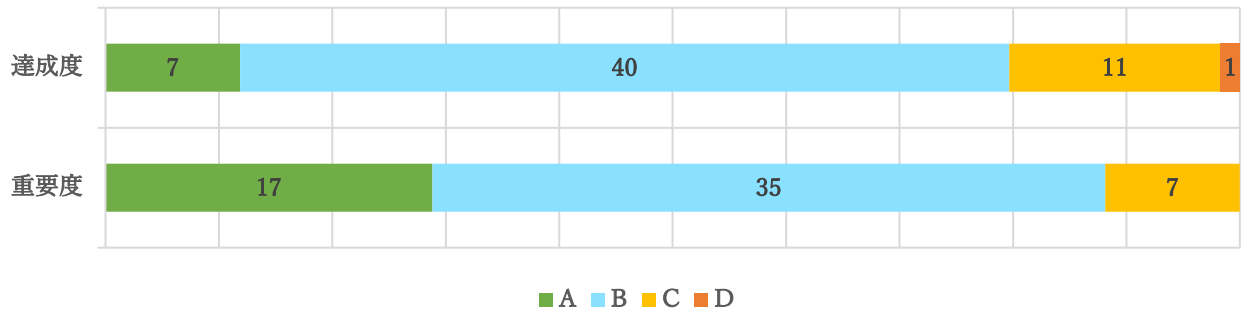
(1) 子どもたちの交流

- ・ つながりを感じ、ふるさとへの意識、愛着を高め、社会性を育む交流の場づくり（小学校絆づくり、中高生校流会、生徒会連合、サミット、合同授業等）



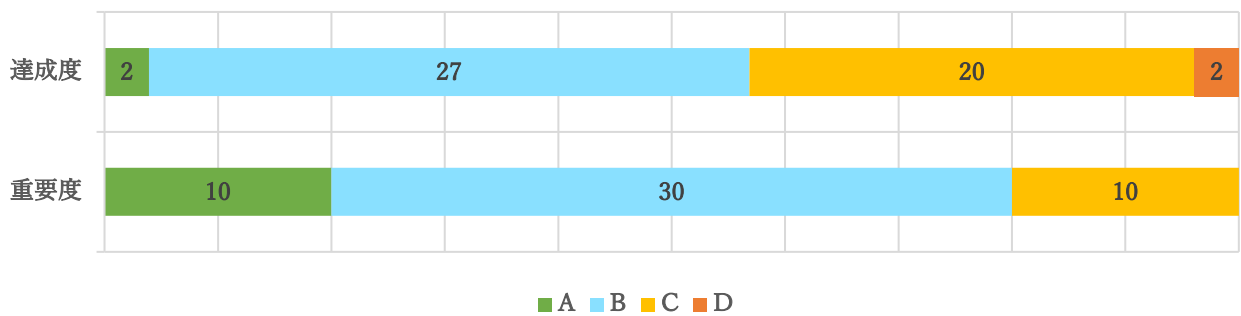
(2) 地域への情報発信と双方向のコミュニケーション

- ・ ビジョンの目標や取り組みへの理解を促す広報誌の発行、Web発信
- ・ 8町村、各学校間の情報共有、子どもたちによる学び、交流の場づくり



(3)教育支援体制の充実

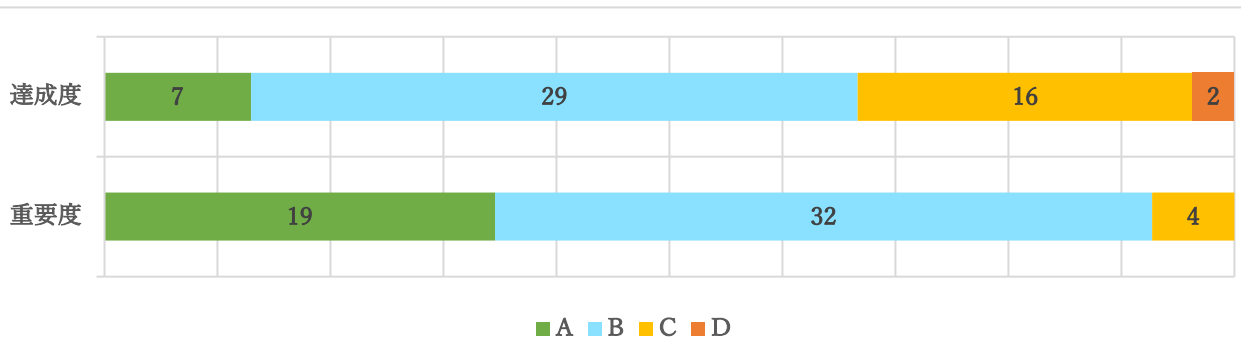
- ・ 町村各拠点での学習会の開催、町村の枠を超えた相互受け入れ



3. 多様な主体との連携による教育と地域復興の相乗効果の創出（柱の3つめ）

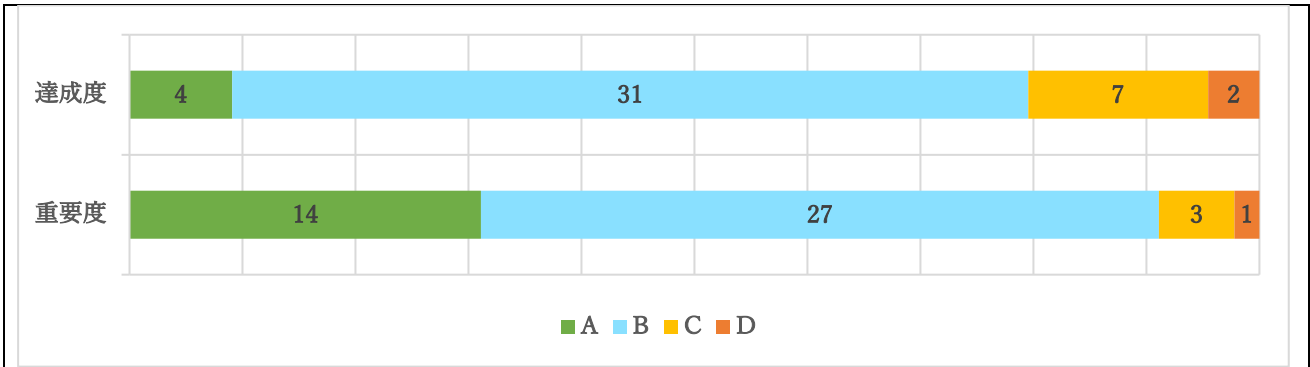
(1) 地域コミュニティとの協働

- ・ 各校の取り組み推進のための体制整備、「双葉郡地域学校協働本部」による町村支援



(2) 中高一貫校における地域コミュニティとの連携

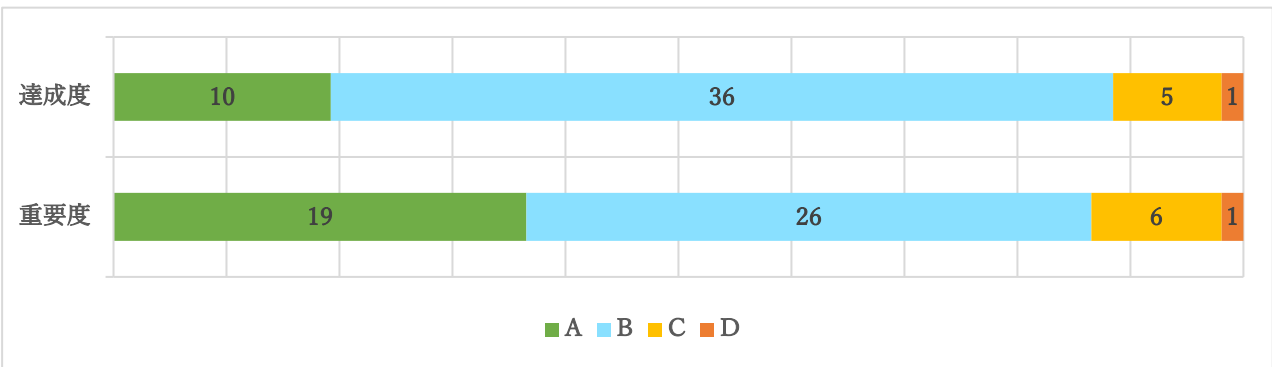
- ・ ふたば未来において「ふるさと創造学」に取り組む子どもたちと、復興に関わる大人との交流の場づくり、教育活動の活性化



#### 4. 取り組み推進のための体制

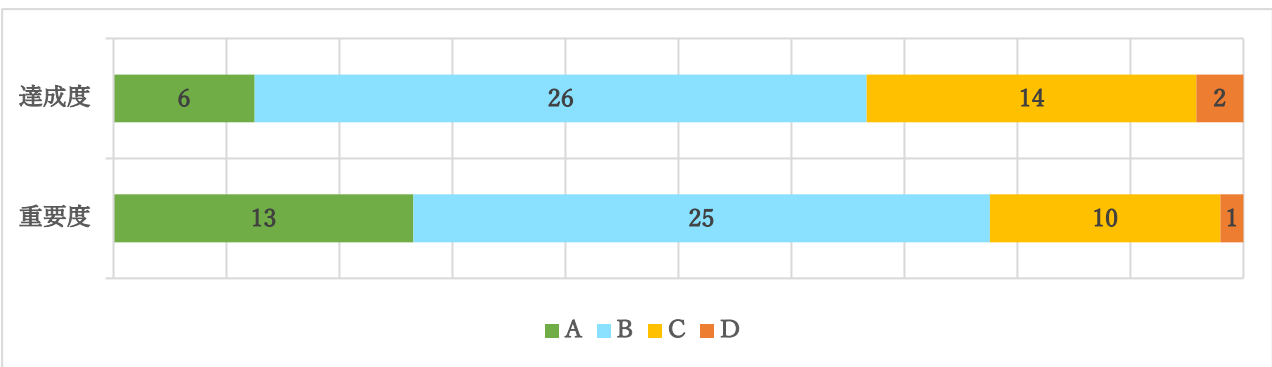
##### (1) 協議会の運営（ビジョン推進協議会事務局）

・ 教育復興を推し進めるための8町村の連携、国・県・関係機関の協力をまとめるビジョン事務局の継続設置、運営



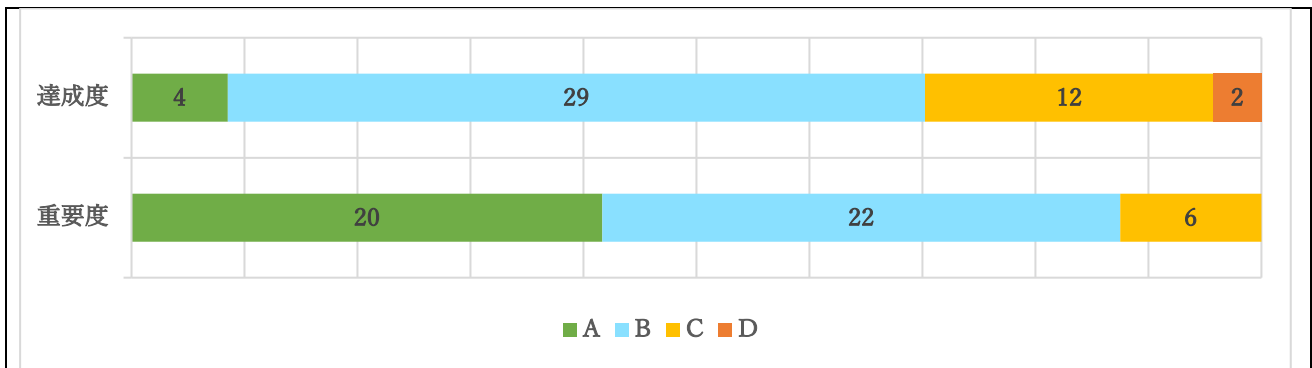
##### (2) 大学・大学院との連携

・ 双葉郡の教育復興ビジョン推進を支援し、課題解決を支援する大学等との連携（教職員や学生の派遣、大学の知見、人材の活用）



##### (3) 企業、NPO等との連携

・ 双葉郡の課題と向き合う実践的な人材育成のための連携、協力



5. 自由記述 \* これまでの成果をどのようにとらえますか？ 次年度以降へ向けた改善・努力案などは？

ここまでの復興ビジョン事務局のご尽力に感謝いたします。震災後 10 年を過ぎ、各学校の状況は大きく異なります。ふたばならではの取組の核になるところは残しつつ行事の内容を検討していく必要があると思います。

震災以降、復興ビジョンが中心となって郡内の教育活動を支えてきたことは間違いのないと思います。自治体の枠を越えた交流などは通常大変難しいことですが、ふるさと創造学サミットなどの機会があり地域間のつながりができたと思います。震災から 10 年がたち、新学習指導要領に移行したこのタイミングでこれからの 10 年について考えてみるのも必要かと思います。現在の自分の思いを書かせていただきました。

自治体に戻り学校再開を果たした学校も新たな取り組みを開始している。またこれから自治体に戻り学校再開を目前している学校もある。震災直後の地域状況とは異なる最近の状況を共有しながら、経験値を継承しつつ、新たな取り組みを始めるとする選択の意図や課題を共有し智恵を交流する機会はこれから必要になると思う。

具体的には、例えば、今後、義務教育学校を交えた「ふるさと創造学サミット」などでの発表会のスタイルは従来のような学年別で対応するのか、義務教育学校の良さは発揮した発表スタイルの工夫の可能性を検討する余地はあるのかなども浮上してくると思う。

双葉郡全体で、子供たち・教職員・大人（含サポートスタッフ）が一体となってここまで教育復興に向けて取り組んで来れたことは、大きな自信につながっていると思う。震災から 10 年が過ぎて被災地から創生地という時期かと考えます。ふるさとふたば郡の伝統を継承しつつ新たな教育の発信ができればと考えます。

県全体から見ても、課題解決の先進地として、最先端の教育実践がなされていると思います。事務局、教育委員会、各学校での取組に深く感謝申し上げます。人事異動によって当初の思いなどを引き継ぐことが難しいところもありますが、研修をとおして、軸となる考えは引き継ぎ、時代に合った新しい教育を展開して行ってほしいと願っています。

### 3. ヒアリング調査結果

少人数であることのよさ、各町村や双葉郡のよさ、現状、課題をとらえ、前向きに課題解決にあたらうとしている方がほとんどである。

ビジョンの理念や方針、ねらい等をよく理解して推進していることがうかがえる。特に、実行委員の先生方の話は、子どもたちや先生方の思いや成長の姿が具体的に見えて、ビジョンの取り組み（先生方の指導等）を大切にしてくれているのがうかがえる。今後、さらにリーダーシップを発揮して、学校の力、地域（各町村、双葉地区）の力、応援して下さる方々の力を集めて課題解決等に努めていただきたい。

また、多くの方が、ビジョンの趣旨や目的の共有、継承、事業の更なる充実等を今後の課題と考えている。

#### A) 町村立学校の校長先生

※主な意見



<p>1. 私たちの町村（または双葉地区）の児童生徒の「学力」等の現状（問題点だけでなく成果も）と今後の課題については、どのように考えますか</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの力を、十分に伸ばしきれているとはいえない。目標の持たせ方、子どもたちに自分の学力等を高めることのよさを分からせることが大切と考える。競争相手が少ないことなどによる、自己を高める機会の少なさが課題のひとつである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学力面を考えると課題は多いが、地域の復興やグローバル化へ対応を考えると単にテストの成績が良ければいいというものではない。子供たちが自信を持って、他に誇れるものを身に付けることが大切である。ふるさと創造学を通じて、子供達がやりたいことや興味を持ったことを見つけることが大切で、その取り組みに家庭を巻き込むことも重要である。学力と新しいものを生み出す創造力と想像力を高める取り組みが今後より必要になってくると思われる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要な児童も多いため学力差があるが、少人数の良さを生かし、一人一人に寄り添い丁寧な指導をしている。今後も子供たちに生き抜く力をつけるために個に応じた学びをしていきたい。</li> <li>協働的な学びをどう取り入れて成果を上げていくか？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>（問題点）学力の二極化。先行きの見えない社会の中で将来への展望が描けないことが起因する学ぶ意欲の低下、主体的に判断し行動し問題を解決する問題解決能力不足。</li> <li>（成果）復興ビジョンの取り組みにより、復興と創造の観点からふるさとを考える機会が得られ、連携と協働作業を通して、自らが問題を解決する資質能力が高まってきている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>震災前に比べ、児童生徒数が激減し、互いに高め合う雰囲気や競争心が伸びていない。保護者を含めたコミュニケーション育成の場の減少。</li> <li>スクールバス通学による日常生活における体力の低下。</li> </ul>
<p>2. 双葉郡の教育復興ビジョンで取り組んできた学習、各種の事業を通して、印象に残っている「子どもの学びの姿、言動、成長の姿など」があれば、それはどのようなことでしたか（具体的に）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「村が大好き」という子どもの言葉が忘れられない。ビジョンの各種取り組みを通して、また、ふるさとを愛し、ふるさとの復興・再生に向けて取り組む地域の人々との交流を通して、その思いに触れ、学んでいることが大きいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、生徒会連合を担当している。子どもたちには、伝えようとする力、聞く力、意欲、姿勢が生まれてきていると感じる。以前とは違ってきている、成長が分かる。校内の様々な場面で、それを見ることが出来る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに向き合い、熱心に課題を解決しようとする姿、サミット等での自信を持って学習内容や成果を発表する姿から、『学び方』を身につけるという視点での成長を感じる。また、地域を知ること、地域と関わることを通して、『地域の一員としての自覚』という目標とする力が確実に育ってきている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと創造学サミットを目標に、「なみえあるもの探し」（町を知る活動）の中で、復興に携わる方々とのふれあい、聞き取りを繰り返すことで、浪江町の未来像を考えるようになってきている。震災後農業を復活した方の話に感動したり、新しい産業を積極的にPRしたり、地域の方々へのインタビューが対話的にできたりと、よい変化が見られる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>• ふるさと創造学サミットでは、プレゼンの方法や構成、提示資料の工夫をして自分たちの学びを伝えることができた。課題解決へ向かう主体的な態度、協働的な態度、表現力、発信力が身についてきている。</li> </ul>
<p>3. 同じく、それらの中で印象に残っている「教職員の学びの姿、言動、成長の姿など」があれば、それはどのようなことでしたか（具体的に）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教育活動を行っていく上で、地域との連携が欠かせない本校の現状がある。「地域との関わりが、様々な面で指導のプラスになっている」という教職員の声を聞く。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生徒達の地域課題探究活動をより良い形で解決に近づくために、教員がみんなでアイデアを出し合い、練り上げ、生徒の発表が終わった時の達成感あふれる笑顔。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本校は他地区出身で若い教職員が多い。そういった中で、各自がふるさと創造学について理解し、地域を理解し、地域素材の開発や地域人材の活用を図っている。赴任した当初に図書館で町の歴史や現状を調べ、児童の探究活動としてコーディネートした教員もいる。また、地域で営農を再開している人の地域への思いをもとに、探究活動を進めていった教員もいる。さらに、総合学習で調べたことを発表する機会を設けたことで、意図的計画的な単元構成を図った。外部人材の活用の仕方や情報発信の方法など、カリキュラム化する力が向上してきている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教師が教えるのではなく、ファシリテーターとして活動することができた。</li> <li>• 何かを教えるかではなく、未知の課題に対して、どのように学び伝えていけばいいのか、生徒と共に考えながら、生徒達の資質能力を高める教育活動を行うことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主体的、対話的で深い学びにつながるよう指導計画と授業改善を図る姿が見られるようになった。</li> <li>• 地域連携教員を中心に学校全体として地域の人材や素材を生かした教育活動が展開されるようになった。</li> </ul>
<p>4. 同じく、それらに関わって保護者や地域の方々からは、どのような話を聞いていますか（具体的に）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各校のホームページやお便り等で成果を発信してはいるものの、関心や理解はまだまだ十分とは言えない。発表を見てくださった方々やインタビュー・体験活動で実際に関わっていただいた方々は、この活動への関心も高く、その成果についても十分理解してくださっている。今後、さらに広報を工夫していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保護者からは、「子どもたちが浪江のことをよく調べている。体験活動が多く充実している。子どもたちの状況、要望に応じて行動してくれている。」などの声がある。地域の方々からは、「町のなかで子どもたちが一生懸命学んでいる姿を見て嬉しい。自分たちをもっともっと活用してほしい。」などの声があった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保護者から「子どもがこんなにもふるさとのことを考えているとは思わなかった。」「ふるさと学習をとおして、発表する力が身につけてきているのを感じる。」地域の方から「子どもの真剣な表情が印象に残った。もっと協力したい。」</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の課題を中学生と一緒に考える活動は、地域にとってとても刺激になるし励みになる。</li> <li>• ICT 機器を活用して発表する姿にこれまでの教育活動の成果が反映されてる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 取組に対する高評価：他では経験できない教育活動が双葉郡・本町では数多く実施している。</li> <li>• 双葉郡の学校に通わせて良かった。</li> </ul>

<p>5. 新たに、双葉郡においてになられた校長先生方に…。「双葉郡の教育」をどのようにご覧になっていましたか。または、この2ヶ月で感じたことなどは</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2年目になるが、双葉郡内各校の取り組みの様子がよく分かる。いろいろな場面で、県内外に知らせていきたい。避難先からふるさとに戻った保護者、子どもたちの思いを大切にした教育を進めていると感じる。教育委員会等の行政も、それを支援をしている。それを大切にしながら、課題の解決に努めていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>双葉郡に着任して、双葉の教育は、地域の復興に直接関わっている。課題解決の学習は大切である。その互いの考え、思いを共有することも大切である。少人数の学校が多い。同世代交流は、成長には大切でなことである。双葉の教育の郡内、県、全国への発信は、地域にも双葉の復興にも力を与えることになると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>I C Tを早くから取り入れ、先生方が当たり前で機器を使いこなしているというイメージをもっていました。昨年度の「ふるさと創造学」等も、オンラインを駆使して、コロナ禍でできる活動を展開していたと思います。HPで広報誌を拝見していましたが、どの学校も実態に合わせ、工夫した取り組みをされているという印象が強いです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの自治体、学校がおかれている現状がちがう双葉町を子供たちはイメージできにくい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふるさと創造学」については、新聞等の記事で知ってはいたが、各校で様々な地域課題の解決に向けた「課題解決型」の教育実践をしており、これからの双葉を担っていく人材育成に向け自治体、大学・企業、地域、家庭、学校等が連携しながら取り組んでいくこと、本当に素晴らしいと思う。今回のアンケート記入に向けて、「双葉郡教育復興ビジョン」「ふるさと創造学実践事例集」を読み、ある程度取り組み内容については理解できたが、今年度の自校の取組について先生方と共有・連携しながら進めていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>震災・原発事故によりそれぞれの地域や学校によって様々な課題がある中で、双葉郡のすべての学校が、子どもたちのためにと地域と学校が手を携えて進んでいる印象を受ける。</li> </ul>
<p>6. 「双葉郡教育復興ビジョン」を推進していく上で、御苦労もあるかと思いますが、それはどのようなことですか</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>苦労はない。子どもたちの活動を見たいので、出張等で、生徒会連合の会議などに出席できないときがあるのが残念である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なことを行っており、どんな事業がどのように行われているか把握できていないこともある。先生方も多忙になっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの町村の実態に違いがあるため、難しいとは感じます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たちへ課題意識を持たせること（自分事として、主体的に）、現在はコロナ禍の中でお互いが切磋琢磨できる場が少ないことなどがあげられます。また、地域の方との交流の場が少ない。そこで、地域学校協働本部をうまく活用したい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>異動により新たな教員が赴任しても「双葉郡教育復興ビジョン」の具体的な取り組みが実効あるものとなるように進めていくために、年度当初に情報を共有し全職員で取り組む体制づくり。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間だけ「課題解決型」の授業実践に心がけるのではなく、普段の各教科の授業から、主体的な学びに向けた授業改善に教師が取り組む必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育復興ビジョンの趣旨や目的、ビジョンをどう継承していくか。 ※町外での仮設校舎・避難生活を経験した教職員が年々少なくなり、ビジョン発足時の熱量を新</li> </ul>

<p>しい教員にどう感じていただくか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>復興の進行が町村によって異なる中、今後どのような方向性を示していくか。</li> </ul>
<p>7. その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>震災を知らない子どもたちが増えてきている。忘れてはいけないことの教育とともに、それだけではなく、双葉としての教育を進めたい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>双葉郡にほとんどの学校が戻ってきている。また、児童生徒数も増えているので、事業を縮小していくことも考えていかなければならない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>郡内のつなぎの役割を担っていただき感謝しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>双葉郡のふるさと創造学は、今後日本全国に広がっていく素晴らしい取り組みだと思われる。改善しながら、他の市町村の見本モデルとなれるように、地域と学校が強いパートナーシップを築き、新しい学校作りと地域づくりが一体となった、社会総がかりによるふるさと創造学を推進していくことが大切だと思われる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生をもつ家庭が帰町しない理由の一つに、部活動が充実（人数が少ないので団体競技がない。練習相手が不足している。等）していないことや、少人数のため学習面での切磋琢磨の場面が少ないなどの声もあり、魅力ある取組の「双葉郡教育復興ビジョン」だけでは前に進めない町村もある。</li> </ul>

B) 双葉郡教育復興ビジョンの各取組元実行委員長、実行委員複数年経験者

※主な意見

<p>1. 私たちの町村（または双葉地区）の児童生徒の「学力」等の現状（問題点だけでなく成果も）と今後の課題については、どのように考えますか</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たち目線での学びができるようになってきていると感じる。ふるさと創造学で考えたことをもとに、子ども議会などの機会に話を聞いてもらい、町政に反映していった例もある。自分たちのルーツを知ることにより、自分が住む地域の課題を子どもたち目線でとらえることもできるようになり、課題を解決するために子どもたち自身も何ができるか、考えられるようになっていく。</li> <li>将来の社会の作り手を育成するのが我々の役目。こうしてほしい、ああしてほしいというだけでなく、自分でなにができるかを考える力を育てる必要がある。</li> <li>今後に向けて先生方の意識改革も必要。地域コーディネーターの役割が重要ではないか。地域と学校の協働が組織的に上手くいくよう、体制を整えるのが管理職側としては大事。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの数が増えない限りは、他町村との交流、連携は必要。何らかの形で継続していかなければならない。小さな学校は特に、学校としてやっていくためにも、交流授業、交流活動は真剣に考えていかなければならない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人数が少ないというデメリットはあるが、少ないからこそみんなで何か話し合っ決めて、協力してつくっていく形が自然に出来上がっており、すごいと感じる。</li> <li>他地域と比べると、双葉郡はみんなの前で発表、発信する機会が圧倒的に多い。子どもたちには負担になるかもしれないが、経験値としていい方向に伸びているように感じる。専門家の方が来た時のやり取りも、しっかりできている。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員数が圧倒的に多く配置されており、一人一人を手厚く見ることができている。人的配置のメリットがある。</li> <li>• 少人数としての良さもあるが、対人関係のことなど、ある程度の人数がいるところで身につけることができる、わかることが、少人数だと厳しい。高校へ行ってからの大人数での授業の進め方にとまどわないよう、それに対応できるような指導はしているが、やはり、高校に進学してからつまづいてしまう話も耳にする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人数が少ないので、個に応じた指導ができている。また、探究を通して、国語の学力がのびているように感じる。日頃の授業も大事だが、ふるさと創造学サミットは素晴らしい発表の場になっている。</li> <li>• 負担に思われぬような形で色々なことを結びつけていくのが教師の役割。子どもたちがやりたいことをどんどんさせて、結びつかせれば良いのかと思うが、一般的に先生方は堅い。そうすると、子どもの柔軟性につながらない。子どもたちと接して、子どもたちから色々と学んで欲しい。遊びの中から学べることもある。どこから子どもたちの想像力が伸び、教科の学力アップにもつながっているのではないか。</li> <li>• 表現力も確かについている。取材への対応力もある。</li> <li>• 子どもたちの力は伸びているが、教職員の資質能力の向上にはまだつながっていない。先生方の資質向上を目指し、先生方のやる気をどう維持していくのが課題。</li> <li>• タブレットを使って学習というと見栄えはいいが、やはり教師からの助言が必要。タブレットで正解が出て安心するだけでなく、子どもたちの思考過程がきちんと捉えられるような教師に育て欲しい。タブレットを与えただけでは子どもたちの学力向上にはつながらない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 支援、支援、支援で、もちろん感謝はしているが、これまで与えられるばかりで、それが当たり前になってしまっている感じがあった。今後はそこから脱却させたいという気持ちもあった。他の教員と、支援を受ける段階はそろそろ終わりたいねという話もしていた。</li> </ul>
<p>2. 双葉郡の教育復興ビジョンで取り組んできた学習、各種の事業を通して、印象に残っている「子どもの学びの姿、言動、成長の姿など」があれば、それはどのようなことでしたか（具体的に）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人数が少ない中、サミットやなにかで他校の取組を聞いたり見たりする機会是非常にいい経験になっている。</li> <li>• 中高生交流会は生き生きと参加している。一流の方のご指導を仰げるのは非常に貴重な経験。子どもたちは1日しか関わっていないが、実施までのプロセスに関わるとすごいと感じる。普段接している先生ではなく、外部講師からその人教を請うのは貴重で有意義な事であり、子どもたちも期待して参加している。これをきっかけに進路を変えた生徒もいた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 双葉郡の子ども達の数が減っていく中で、ビジョンの取組を通して繋がり、大人になって協力し合って地域を盛り上げていけるような子どもも育て欲しい。実際に、友達になっている子どもたちもいる。横の繋がりも大切だと思う。</li> <li>• ふるさと創造学により、ふるさとを思う気持ちを強く持てるようになってきていると感じる。ふるさとから出て行ったとしても、色々な形で地元で貢献できるような人材が育っているのではないか。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 昨年度のサミットで行った 20 年後の未来の新聞づくりもとてもよい企画だった。ああいう目線で自分たちのふるさとの将来を考えることができたのはよい経験。将来、少しでも実現できるとよい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人前で自分の考えを発表する、他校の発表に意見を言う、交流するなど、通常はなかなかできないので、サミットでそれができるのは子どもたちにもいい経験。</li> <li>• 中高生交流会は、学校では出会えない人に会い、お話をいただけるのは、子どもはもちろん、保護者もいい経験だったという話はしていた。</li> <li>• ふたば生徒会連合に関しても、オンラインでの活動も会を重ね、スムーズになってきている。昨年度もサミットで、待ち時間にウェブをしたら他校の生徒が反応してくれた。ちょっとした一体感を楽しむことができ、子どもたちもうれしかったようだ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 当初は同世代の子とコミュニケーションをとるのが難しい感があったが、ビデオ会議の回を重ねることで、より積極的な様子が見られるようになった。同世代の子たちと意見交流をしたりすることは、緊張はしているが、とてもいい経験になっている。</li> <li>• サミットに向けた発表の練習で、どうすれば楽しく、わかりやすく伝えられるかというところで、一生懸命試行錯誤している子どもたちの姿が心に残っている。定期的なオンライン会議や発表に向けたスライドの作成など、同じ中学生でも、ICTの活用は他地域に比べていい経験が来ている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 初めて富岡町に子どもたちが入るとなった時、当時 5 年生の子供たちを連れて行った。当時の記憶が残っているのはあの世代が最後。富岡一小の校舎に実際に入り、自分たちが座るはずだった席に座ったり、津波で流された富岡駅から海を見たり、富岡ホテルの社長さんや震災前から飲食店を経営していたさくらモールの方に話を聞いたりした。ものすごいスピードで変わっていく部分と、まったく進んでいない部分があるなかで、初めて富岡町の子どもたちが来てくれたと、地域の方々もとても喜んでくれた。その際、子どもたちが、「僕たちが大人になったときに、震災後、町がどう変わっていったのか自分の言葉で説明できる大人になりたい、だから富岡町に来たんだ」と言っていたのが非常に心に残っている。</li> </ul>
<p>3. 同じく、それらの中で印象に残っている「教職員の学びの姿、言動、成長の姿など」があれば、それはどのようなことでしたか（具体的に）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分たちが指導したことで子どもたちがいきいきと活動しているので、座学の授業では見せない子どもの変容、活躍ぶりを見て、「やってよかった」、「もっと色々な学びをつけさせたい」と実感している教員はいた。自分たちだけでなく、外部からの情報を意識的に得るようにもなったり、子どもと同じように、課題を見付け、どうするかを考えるようになった先生もいた。</li> <li>• 担任だけでなく、ICT 支援員も積極的に関わっている。外部と関わる際、一回で終わりではなく、継続的にやっていくことで学びも追求も高まっていくものと感じる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人数も少ないし、特殊な事情がある学校なので、これで良いのかと疑心暗鬼になることもあるため、先生方もとっても他校の取組を知れるのは勉強になる。</li> <li>• 生徒会連合もリーダーを育てる意味でもいい取組。我々が思っている以上に交流ができている感があり、人数が少ないからこそ他校の生徒会と繋がれるのは目に見えない刺激になっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• ふるさと創造学の取組を通して、考え方が変わったように思う。事前のアポもなく、その場で会った町の人にインタビューをお願いしたことがあった。その場で臨機応援に対応することで、生</li> </ul>

の地域の現状が見えると感じた。地域でも有名な方々に、事前に十分な段取りをしてインタビューするという流れもあるが、そうすると向こうも構えてしまうし、有名な方々はそもそも前向きな方々なので、すごくいいことを言う。ふるさと創造学を考えたとき、ほんとうにそれが地域のニーズなのだろうか、それでほんとうに地域の課題に取り組んでいると言えるのだろうかと考えようになった。一番のキーワードは交流。特定の目立つ人だけでなく、地域の人といろいろな交流をする。小さな声を解決するほうがより地域のためになるのではないかと、そういう声を聞いていくのが大事なのではないかと考えるようになった。

- ふるさと創造学が始まったころ、正直、何をどうしたらいいのかわからなかった。探求的な学びについて、こうしたらいいのか、こうやって関わっていったらいいのかなど、日々模索したり、研修会に参加したり、自分たちにとっても学びのいい機会になっている。
- 先生方はみないろいろな考え方があり、共同歩調は難しい。ただ、単なる指導ではなく、コーディネーター的な形で学びをコーディネートするというのは、総合だけでなく、ほかの教科でも必要になってきている。総合で得たスキルが他の教科での子供たちの学びにもつながっていくのではないかと感じる。

- 他地区からここに来たが、いろいろな行事に参加させていただき、他町村の生徒の発表を聞いたりと、目で見たりすることで、まだまだわからないことはあるが、少しでも雰囲気を感じ取ることができたのではないかと感じる。ここで経験したことは、これからの教員生活にも生かせると感じる。プレゼンテーション一つつくるにも先生と子どもたちで話し合いながら進めることで、一つになれた感じがある。先生方にとっても貴重な体験だ。

#### 4. 同じく、それらに関わって保護者や地域の方々からは、どのような話を聞いていますか（具体的に）

- 地域の方は子どもたちのために何かしてあげたいという気持ちが強い。お互いがウィンウィンの形になっている。
- 地域の方の前で発表する機会があった。子どもたちの発表を見て、泣いているおじいちゃん、おばあちゃんもいた。学習発表会自体がまだないが、地域の人にとってはそういう発表をみるのはとてもうれしいことだ。対面には対面ならではの良さがある。リモートでは熱が伝わりづらいことがある。
- コロナだったので通常の交流が出来ず、手紙をやりとりしたが、返事もいただけたし、地域の方も喜んでくれた。子どもたちも返事ももらえてうれしいと言っていた。
- 福島民報には「せっかく帰ってきたのに、コロナで交流がないが、近くの小中学生ががんばっているのを見るとホッとする」という投稿があった。地域の方々は子どもたちの様子を見てくれている。
- 中高生交流会は、「私も行きたかった」という保護者もいた。サミットも結構見に来てくれた。
- 保護者の考えも様々で、戻った方もいるし、戻らないと決めた人もいる。過去には保護者から、「ふるさとに戻るとか、ふるさとの復興とか、自治体や大人の願いを子どもたちに押し付けないでほしい」、「双葉郡に生まれたからって、大人になってからも双葉郡で生きていかなければならないというような教育をしてほしくない」、「地元のふるさとだけに閉じ込めないでほしい」という声もあった。

<p>5. 「双葉郡教育復興ビジョン」を推進していく上で、御苦勞もあるかと思いますが、それはどのようなことですか</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>負担感はあるかも知れないが、動いてくれる先生方が多い。学校へ情報が下りてこない時でも、色々調整が進んでおり、全く何も動いていない訳じゃないと伝えていけば、対応が必要になった時も比較的うまくいくように感じる。何事も、目的をしっかりと示してもらおうほうが動きやすい。</li> <li>実行委員会へ出席するのは大変だが、他校の先生方に会える楽しみがあった。最近はオンラインのみになり、楽しみも減った。実行委員になって知り合っただけの出来た絆もある。特にいったん避難して、双葉郡戻ってきた先生方だと、実行委員会で二回三回と会えると、更に絆が深まる。ただ、そういう感覚がない人もいると思う。双葉郡に関わった事がない先生が増えてきているのではないか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の先生方は、協力はしてくれるが、やはり取組に対する温度差がある。他の先生方にも周知徹底をはかっているつもりだが、多忙にまかせて徹底されないこともあり、「なんでこんなことやるのか」という声があがることもある。ただ、連携は今後も必要なのではないか。やり方は変わっていくかもしれないが、バラバラになっても町や村は昔のまま。今後もつながりは大事にしていくべき。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員は大変ですねと言われるが、なんでこんなことをしなければいけないのかとは言われたことはない。負担感を感じる教員もいるかもしれないが、一番いいのは、サミットをやることで、こんな成果があがっているということ、教員一人一人が実感できればよいのではないか。ただ、実際はすべての人がそれを実感することは無理だと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジョンの動きは大変だが、内容は素晴らしい。歩調が揃っていないのが残念。色々事務局任せになってしまっている。例えば行事はサミットに一本化し、その他生徒会等の担当は年度ごとに学校で担当しても良いのではないか。</li> <li>交流会の内容に、小学校と中高とで差がありすぎる感がある。いずれにせよ、絆はやることになっているのでやっている感がある。今後は必要ないのではないか。成果につながっていない感がある。校長先生がビジョンをどう考えるか、どうとらえるかによって、先生方の意識も変わるように感じる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>一生懸命にやってくれる先生方が多いが、「もう一区切りつけてもいいのではないか」という声は年々増えてきていることも実感している。全員が満足することは難しいが、そういう意見をもっている先生方にももっと耳を傾けていかないと、負担感が増し、やらされ感でやることになる。</li> <li>他地区の先生からは、「双葉にいくとサミットをやらされるので行きたくない」という声がある。双葉郡出身の教員がどんどん減っている。ビジョンの取組がどうのこうのというよりも、今後、いかにして双葉郡の教員を増やすのが非常に重要ではないか。学校はやらなければならないことがいっぱいある。右も左もわからない土地で、ふるさとのことを発表しろと言われても、やはり難しい。その根本が解決されなかったら、今後、大きく好転していくのは厳しいのではないか。</li> </ul>
<p>6. その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>双葉郡にいと、総合が非常に勉強になる。前の学校ではここまで探究、探究という感じではな</li> </ul>



<p>かった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の資質能力の育成も重要。子どもたちにとってもやらされている感がない方が、学びが広がる。子どもたちに火を付ける、次の活動に結びつけるのが得意な先生だと、子どもたちもほめられて、「もっとやってみたい」という意欲も高まる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>サミットに関しては、今後も継続でよいのではないか。やはり対面でやったほうがよい。ただ、新聞をつくるような企画は、いくら「事前の準備は必要ない」と言っても悪い意味での競争心が出てしまい、先生方は真面目なので独り歩きしてしまう。実行委員会でもっと共通理解を図る必要がある。</li> <li>ふたば生徒会連合のビデオ会議は、毎回ただ自己紹介をしている印象で、回数を重ねる必要があるのか、疑問がある。生徒会担当の先生方は対応が大変なのではないか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人数が少ないから恥ずかしく思うのではなく、誇りをもってやってくることができた。少ないのはいいことだ。少数でやるのがこれからの未来の学校の形。子ども一人一人を見て、一人一人に合わせて勉強を組み立てていける。特別な支援が必要な子どもたちにも手厚く関わることができている。だからこそ、学力の面で言うと、アンダーアチーバーが知能検査から導き出す期待値よりも上になってくることが多い。一人一人にあった指導をすると、子どもたちのやる気につながる。色々なことが苦痛ではなくなってくる。それなりの接し方ができるようになってくる。当たり前前に、勉強も出来るようになってくる。自分のことを表現しなければならぬ機会も多く、鍛えられてきていることは確か。</li> <li>交流会で1回しか会ったことがなくても、いつか繋がることもあるかもしれない。今後の関わり合いに発展していくような気がしてならない。大人になってから一緒になにかやろうとなっけきはしないか。そう考えると面白い。町村の枠を越えた連携は、今後ますます大事になってくるのではないか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>双葉郡の子どもたちは双葉郡のことを学ぼうとしている。担当するのは外から来た先生かも知れないが、双葉郡とはどういうところなのか、3年間しかいないかも知れないが、子どもたちのため、一緒に学んでいくような先生方に育って欲しい。</li> <li>他地区の先生方から「子どもたちが町のことを本気で学んでいる。提言までしている。他にやっているところはない。双葉郡はすごい」と言われる。サミットもすばらしい。ああいう大舞台で発表できる機会を、今後も生かして行ってほしい。</li> </ul>

以上